第５節　古代・中世の調査成果

（１）概要

古代の遺構として、溝３条（SD１・６・９）を検出した。これらの溝の埋没時期は、SD９が７世紀末頃、SD６が８世紀末～９世紀頃、SD１が９世紀頃と考えられる。

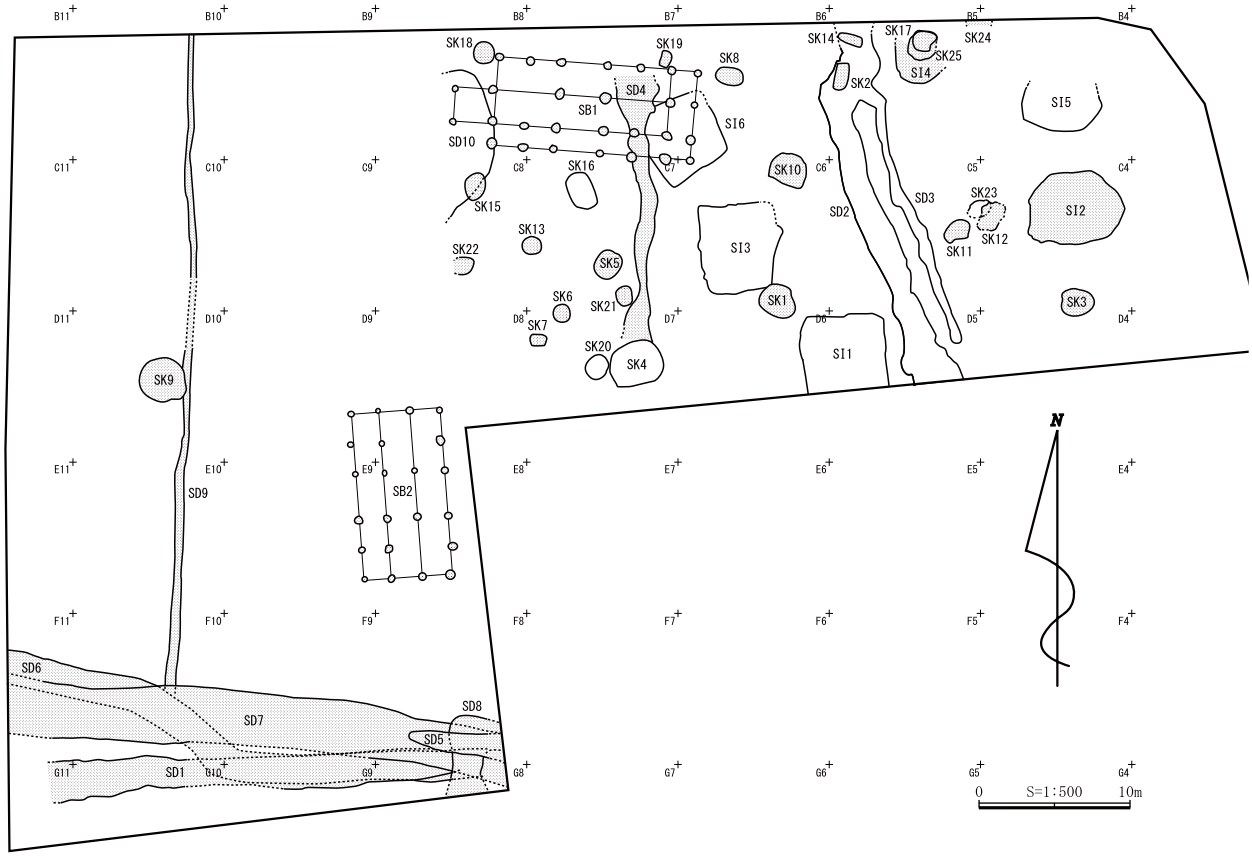
中世の遺構として、竪穴住居跡２軒（SI２・４）、掘立柱建物跡２棟（SB１・２）、溝４条（SD４・５・７・８）、土坑21基（SK１・２・３・５・６・７・８・９・10・11・12・13・14・15・17・18・19・21・22・24・25）を検出した。これらの遺構は大部分が12世紀代に位置づけられ、掘立柱建物跡やSD４など一部の遺構が13世紀代に降るものと考えられる。（君嶋）

【註】本報告書においては、７世紀後半～10世紀代を古代、11世紀以降を中世とする。土器編年と暦年代との対応は、例言に掲げた参考文献に拠る。

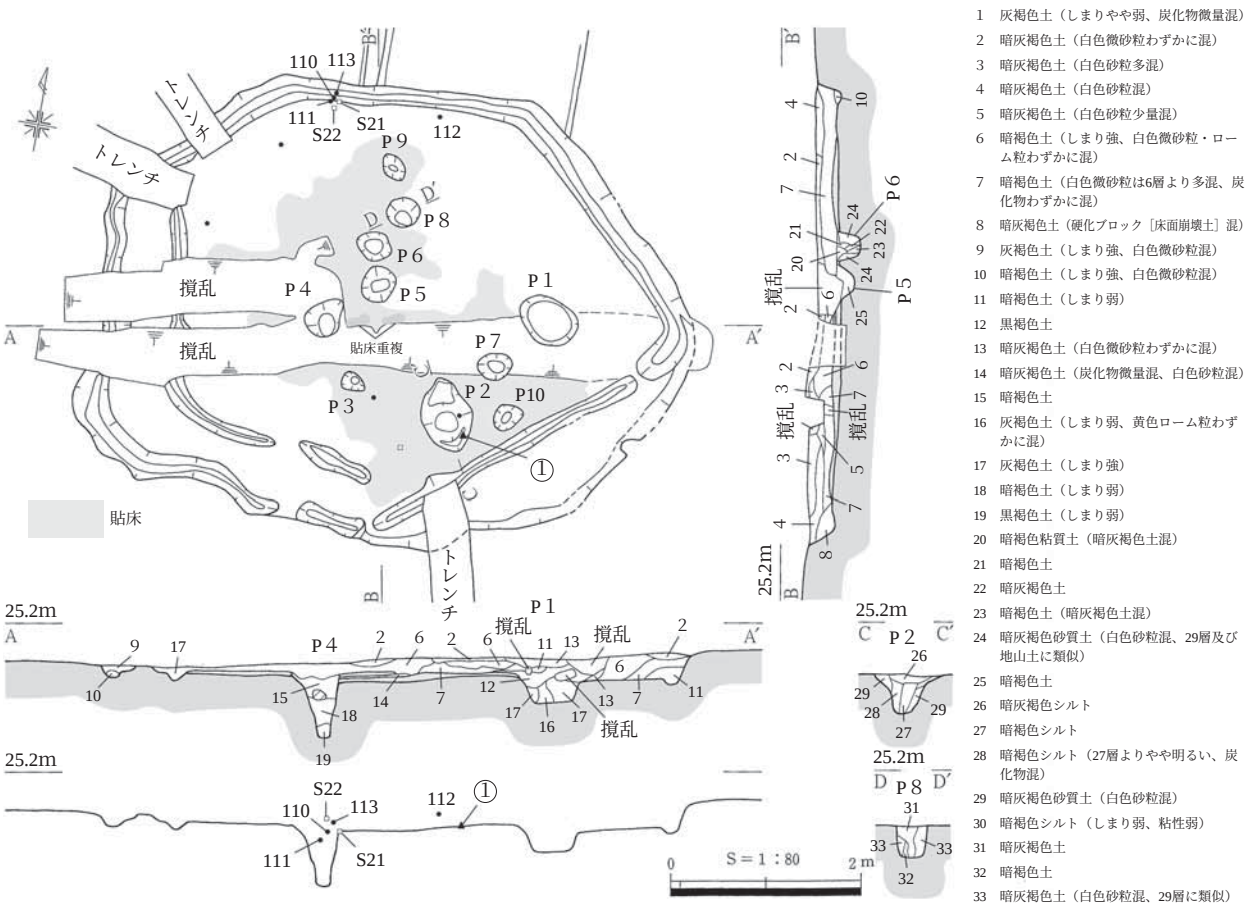
（２）竪穴住居跡

SI２（第34・35図、第５表、PL.10・35）

C4グリッドに位置する。東西方向に主軸をもつ不整な多角形を呈し、長軸約6.3m、短軸約4.85mである。検出面からの深さは最大で約25㎝である。床面は貼床を施しているが、遺存しているのは中央部付近のみである。床面のほぼ中央、P5・P4付近では、薄い間層（14層）を挟んで貼床面が上下に重複している箇所が認められる。床面の周囲には幅約10～20㎝、深さ約５㎝の壁溝が巡る。住居の南東辺はやや弧状を呈するが、ここでの壁溝は壁面直下ではなく、壁面の約80㎝内側に直線的に設けら



第33図　古代・中世遺構分布図



第34図　SI２

れている。また、壁溝と壁面との間は床面より10～15㎝ほど高くなっており、意図的に掘り残された棚状施設の可能性もある。住居の西壁および南西壁では、壁溝の30～50㎝内側に平行するもう１条の溝が検出された。先述した貼床面の重複と合わせて、本住居跡が拡張ないし建て替えを経ている可能性を示唆するものである。

第５表　SI２ピット計測表

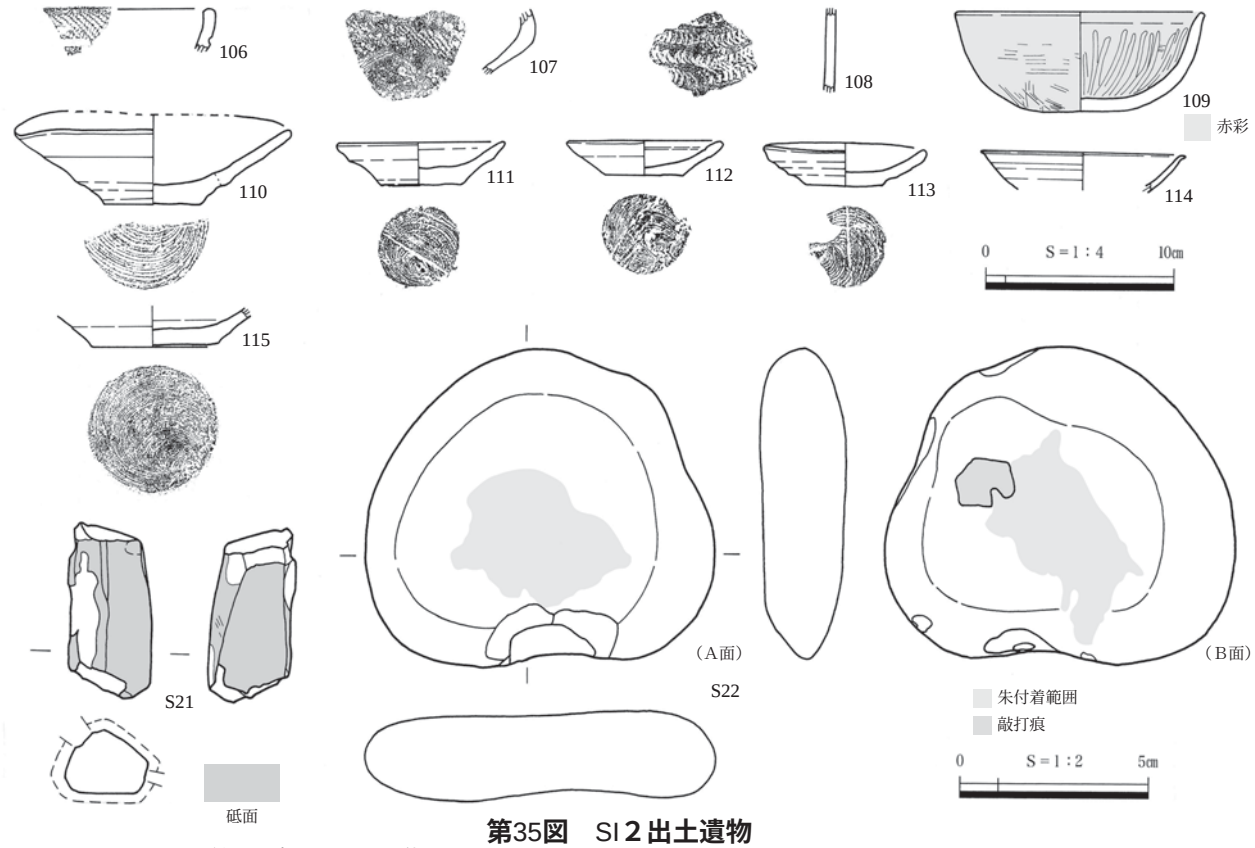
番号	長軸(㎝)	短軸(㎝)	深さ(㎝)
P１	65	50	20
P２	80	55	42
P３	25	20	24
P４	45	37	65
P５	37	35	19
P６	37	30	29
P７	37	28	22
P８	37	33	32
P９	30	22	20
P10	35	25	12

ピットは10基検出された。いずれも柱痕跡は明確ではなく、配置も不規則であり、主柱配置を復元するには至らなかった。遺物は、埋土中および床面直上から土器片多数が出土した。土器の特徴は八峠中世Ⅱ期に相当することから、本住居の時期は12世紀代と考えられる。また、縄文・弥生土器も少量出土している。

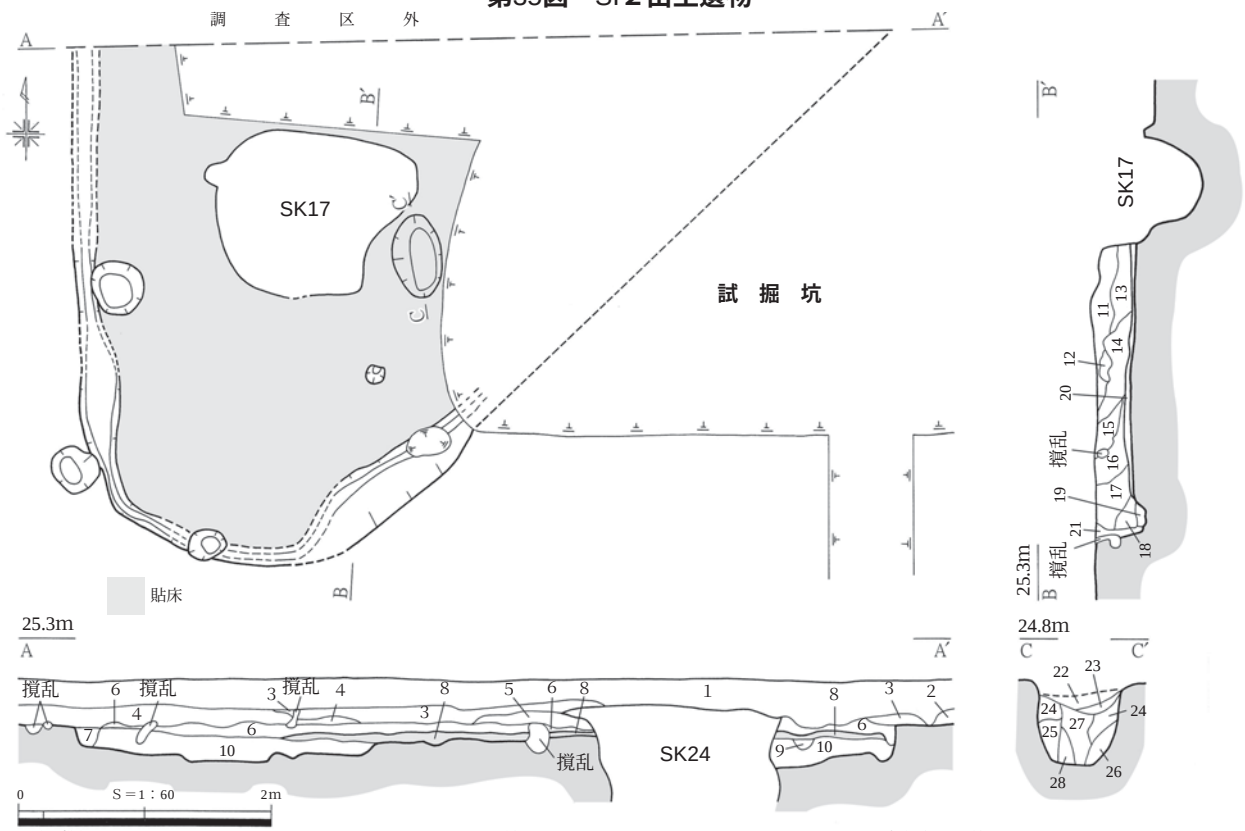
なお、土師器坏110、皿111、砥石S21は、北壁際の埋土中に平らに据えられた礫S22の下から、少量の炭化物とともにまとまって出土したものである。出土状況から、これらの遺物は、本住居の廃絶後に埋土中に掘り込まれたピットに伴うものである可能性も考えられる。ただし、112、113など他の位置から出土した土器と比べても大きな時期差は認められない。（君嶋）

SI４（第36図、PL.11・40）

B5グリッドの調査区北壁際に位置する。北側は調査区外にかかり、東側は調査に先立って設けた試掘坑にかかるため、全体の形状は不明である。SK25の埋没後に構築された遺構であり、床面中央



第35図　SI２出土遺物



1　表土・耕土
2　暗灰褐色土（しまりやや弱、粘性あり、褐色粒混、10㎜大小礫まばらに混、縄文から近世の遺物包含層［＝基本層序Ⅱ-1］）
3　暗灰褐色土（しまり強、黒褐色粒班に混、3㎜大黄褐色砂礫［黄色粒］多混、包含層［＝基本層序Ⅱ-2］）
4　暗灰褐色土（基本層序Ⅱ-2層に色調似るが灰色強く暗い、しまり強、緻密、白色微細粒・橙色粒［スコリアか］ごく少量混、炭化物混、中世初頭の遺物包含層［＝基本層序Ⅱ-3］）
5　暗灰褐色土（黄褐色砂礫わずかに混）
6　暗褐色土（しまり強、黄褐色砂礫多混）
7　暗褐色土（黒褐色小ブロック混、壁溝埋土）
8　暗褐色土（しまり強、白色微砂粒多混、黄褐色砂礫わずかに混、貼床土）
9　暗褐色土（黄褐色砂礫多混）
10　暗褐色土（褐色ブロック混、黄褐色砂礫わずかに混）
11　暗褐色土（しまり強、５㎝大大角礫・炭化物混、ローム粒わずかに混）
12　黒褐色土（ブロック状をなす、しまり強、ローム粒多混）
13　黒褐色土（しまり２層より強、ローム粒わずかに混）
14　黒褐色土（ローム粒・黄色小ブロック多混）
15　黒褐色土（径３㎝大円礫混、ローム粒・白色砂粒わずかに混）
16　暗褐色土（ローム粒混［15層より多く、14層より少ない］）
17　黒褐色土
18　黒褐色土（しまり強、緻密）
19　黒色土（しまり強）
20　暗褐色土（8層と対応、ローム粒わずかに混、貼床土）
21　黒褐色土（しまり弱）
【貼床下層土坑】
22　灰褐色土
23　暗褐色土（黄褐色砂質粒混）
24　灰褐色土（しまり強、黒褐色ブロック混）
25　暗褐色土（しまり強）
26　暗灰褐色土（しまり弱、粘性弱）
27　暗灰褐色土（炭化物・黄褐色粒わずかに混）
28　灰黄褐色土

第36図　SI４

にはSK17が掘り込まれている。また、試掘坑際を除いて削平が及んでおり、壁面もほとんど遺存していなかった。検出したのは南北約４m、東西約３mで、住居の隅角部分に相当する。調査区北壁の土層断面では、東西方向の規模は6.5mとなる。ただし、検出した壁の東端と断面での東端とを結ぶと、住居の全体形はかなりいびつな三角形ないし多角形として復元されることとなり、やや不自然である。壁面の高さは、試掘坑際での土層断面では30㎝を確認できる。床面は、検出した範囲では全面貼床を施しており、周囲に壁溝が巡る。部分的に、貼床下に整地土（10層）を充填している。また、貼床下では、SK25の他に長軸65㎝、短軸40㎝、深さ70㎝の小土坑を検出した。ピットは住居の外縁に接するものも含めて４基検出したが、主柱配置は不明である。遺物は、埋土中から土器片十数点が出土した。いずれも小片であり図化に耐えないが、縄文土器の他に底部回転糸切の土師器片が含まれていることから、本遺構の時期は平安時代と考えられる。（君嶋）

（３）掘立柱建物跡

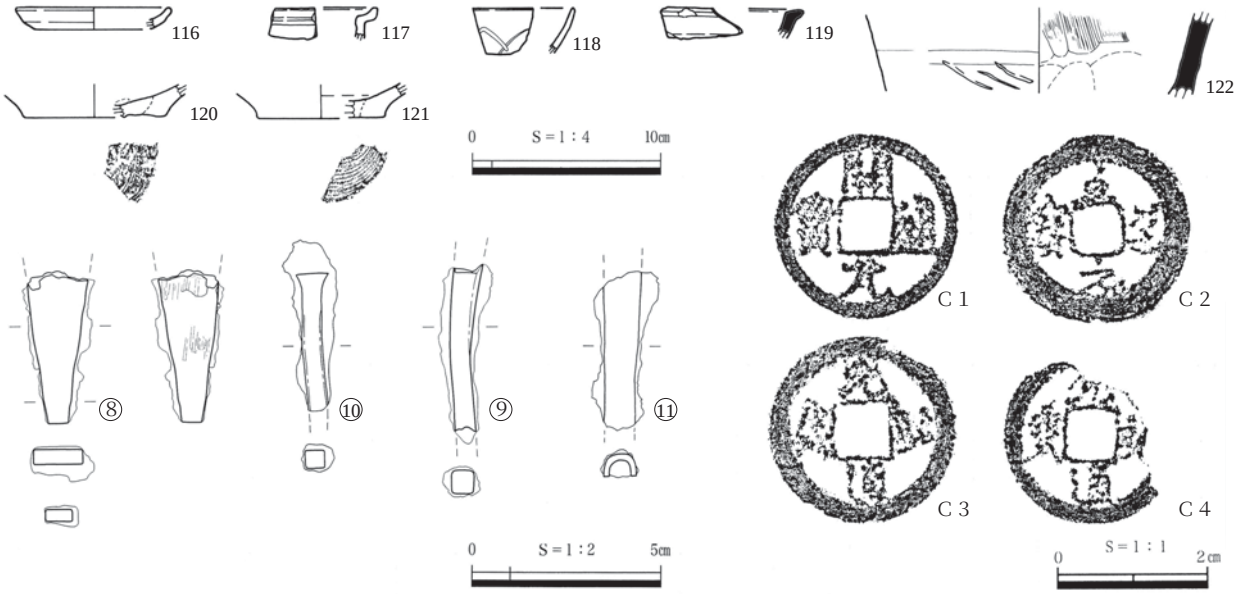
SB1（第37・38・39図、第６表、PL.11・12・13・31・42・43）

B7・8グリッドの平坦面に位置する。建物の東側ではSI６とSD４を掘り込む。東西棟の掘立柱建物で、主軸をW－５°－Nにとる。

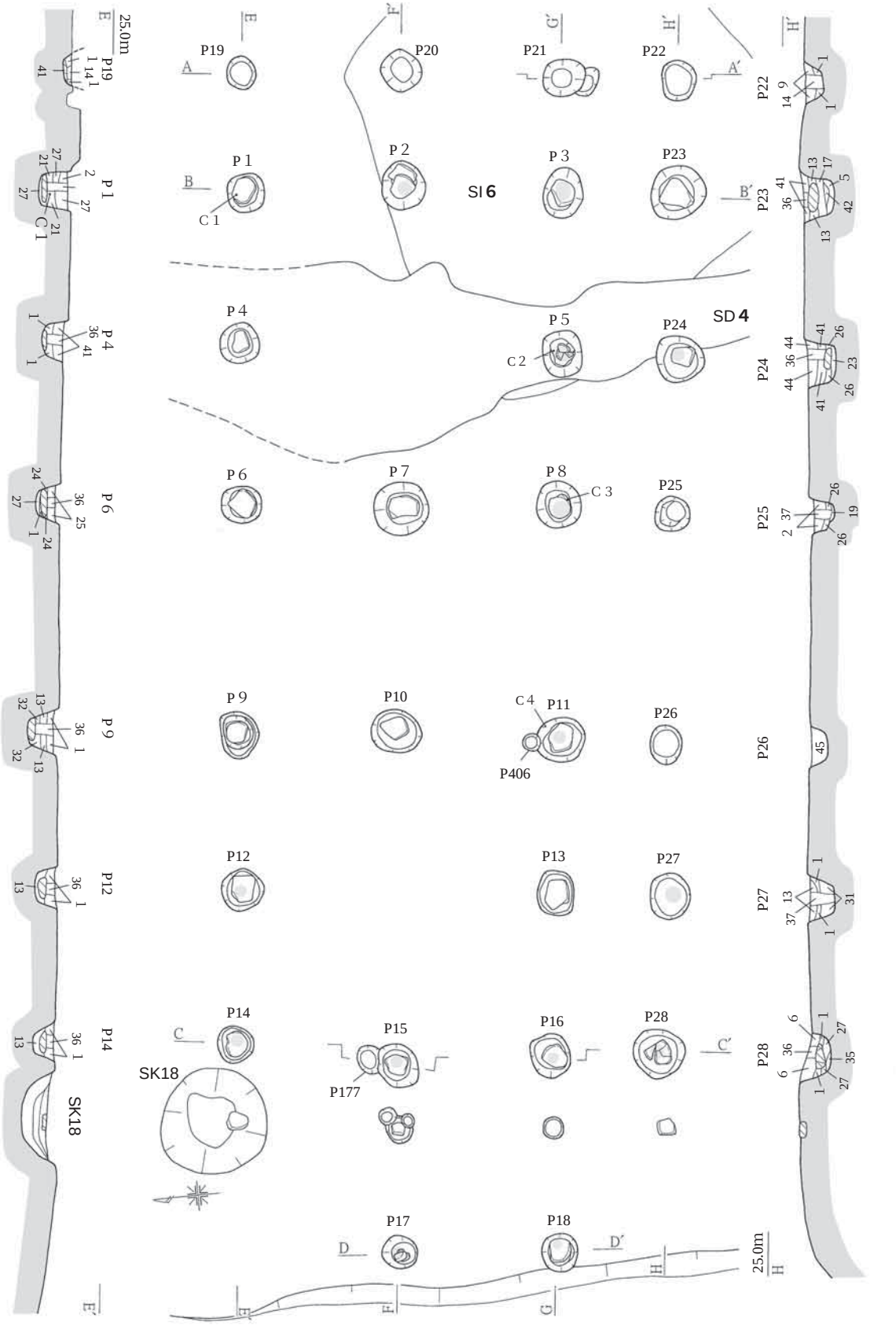
身舎（もや）（主屋）は柱間が桁行５間×梁行２間。柱間距離は桁行の中央間が約３m。その他は桁行・梁行とも2.1m前後である。

身舎の柱掘方はP1～P16で、直径50～70㎝、平面円形あるいは楕円形を呈する。深さは40㎝～1.1mで、断面観察によりすべての柱穴において柱痕跡を確認した。平面検出時に確認できたものはすべて円形で、柱径はそれぞれ12～20㎝に復元できる。掘方の底面には礎盤石が据えられ、その上に柱が立つ構造であった。

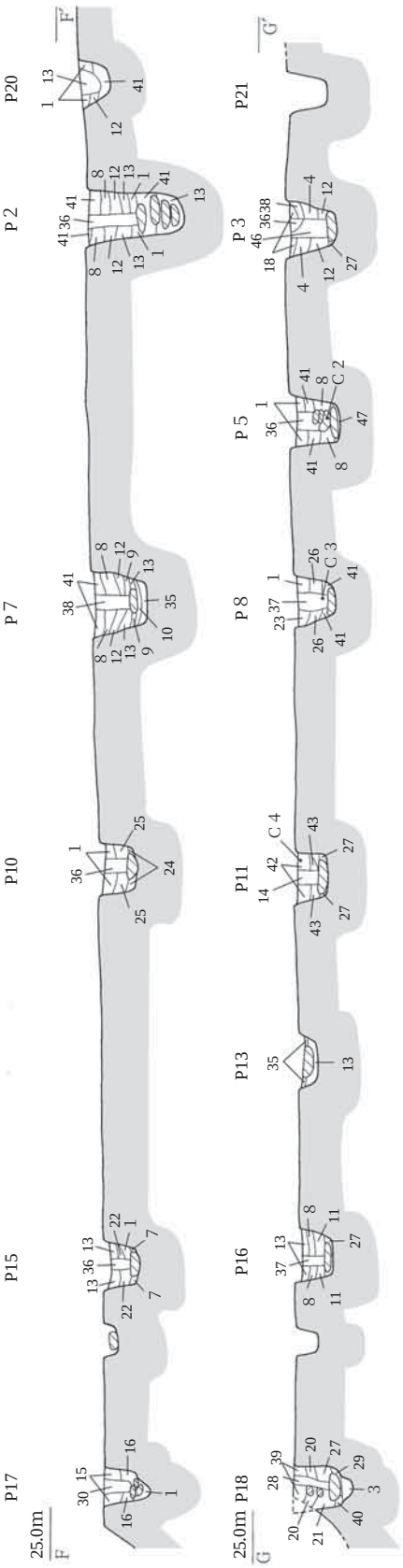
礎盤石は厚さ10㎝前後の扁平な自然石で、加工痕跡は認められない。礎盤石の据付け方法は①柱掘方の底面に直接据えるもの②柱掘方掘削後、礎盤石を安定させるための土を入れたあと、その上に据えるもの③柱掘方の底面から２、３層程度、互層状につき固めてから据えるものと大別して三つのパターンが確認できた。また、③の特異な例としてはP2のように深い掘方に礎盤石を積み重ね、より堅



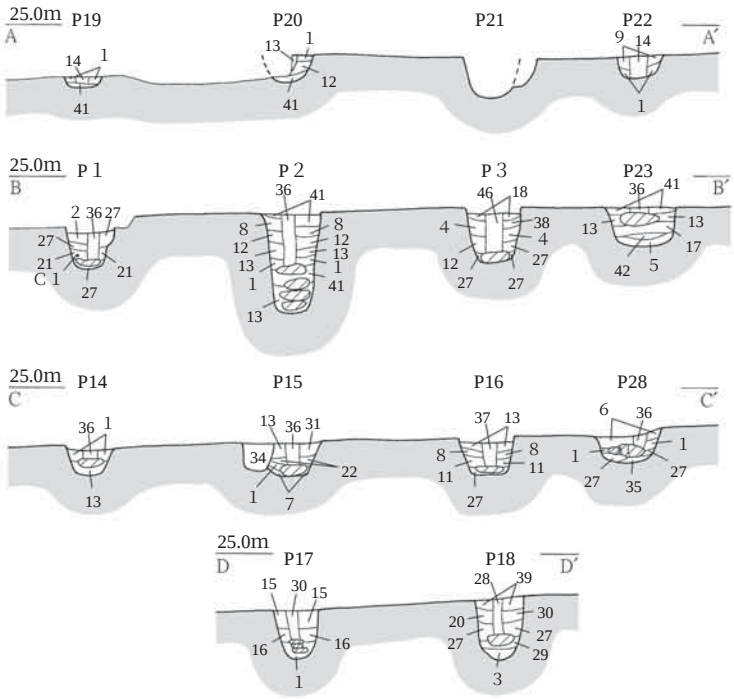
第37図　SB1出土遺物


25.0m
P19
P20
P21
P22
P1
P2
P3
P23
SI 6
C 1
P4
P5
P24
SD 4
C 2
P6
P7
P8
C 3
P25
P9
P10
C 4
P11
P26
P406
P12
P13
P27
P14
P15
P16
P28
SK18
P177
P17
P18
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
G
G′
H
H′
平面検出した柱痕跡
0
S＝1：80
2m

第38図　SB1



第39図　SB1土層断面図

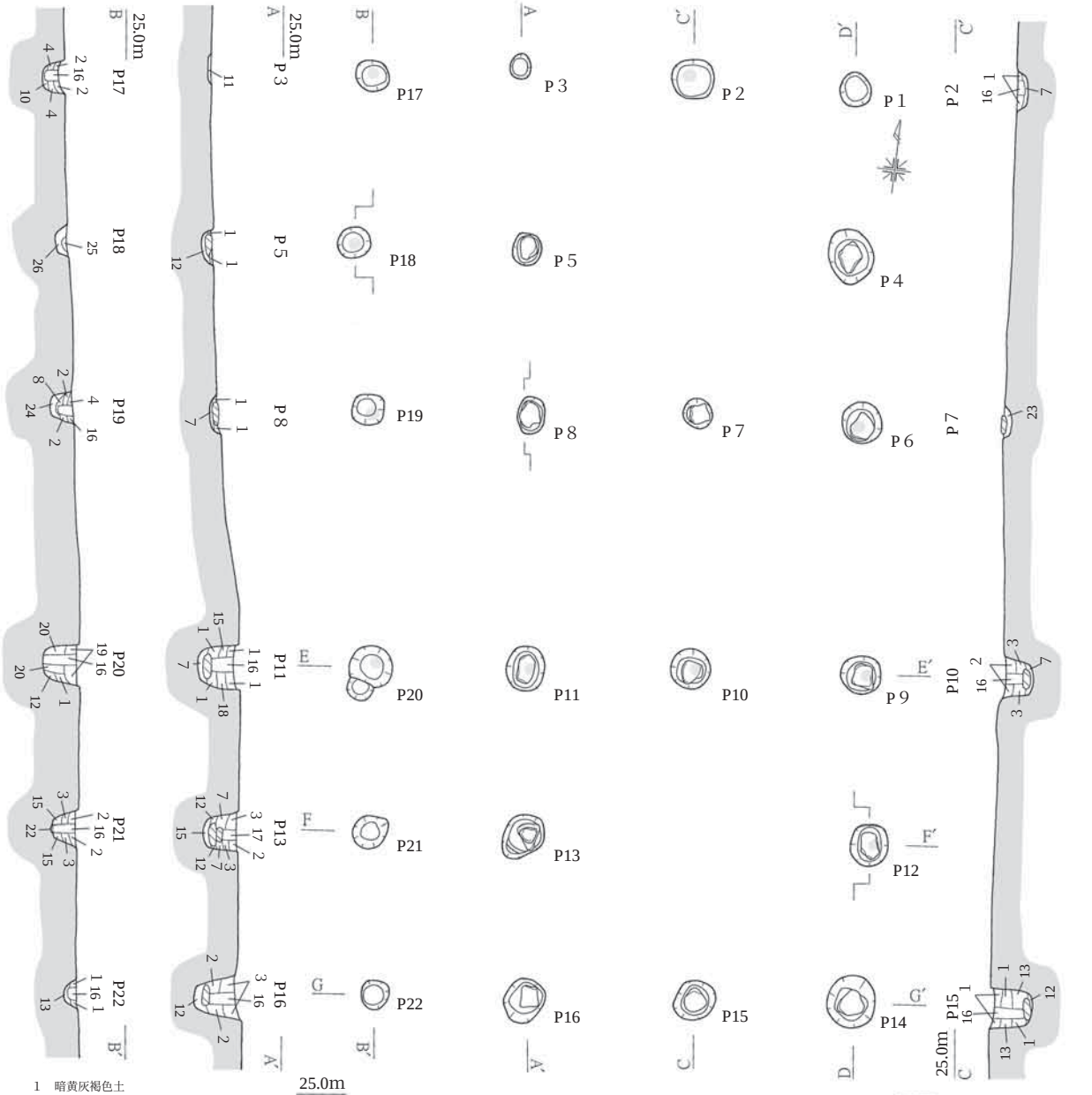


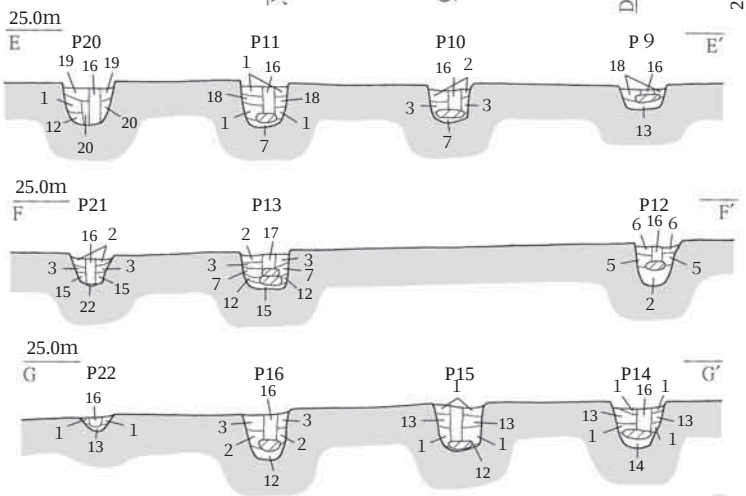
1　暗黄灰褐色土
2　暗黄灰褐色土（脆い）
3　暗黄灰褐色土（しまる、ローム粒混）
4　暗黄灰褐色土（しまり強、粘性あり）
5　暗黄灰褐色土（褐色強い、しまり強、粘性あり）
6　暗黄灰褐色土（橙褐色ブロック少量混）
7　暗黄灰褐色土（灰褐色ブロック少量混）
8　暗黄灰褐色土（褐色強い）
9　暗黄灰褐色土（暗褐色強い）
10　暗黄灰褐色土（灰褐色強い）
11　暗黄灰褐色土（灰色強い）
12　暗黄灰褐色土（黄灰色強い）
13　暗灰褐色土
14　暗灰褐色土（柱痕跡）
15　暗灰褐色土（しまる、炭化物混）
16　暗灰褐色土（しまる、柱痕跡）
17　暗灰褐色土（しまり強）
18　暗灰褐色土（しまり強、粘性あり）
19　暗灰褐色土（褐色強い、しまり強）
20　暗灰褐色土（炭化物・ローム粒混）
21　暗灰褐色土（炭化物少量混）
22　暗灰褐色土（暗褐色ブロック少量混）
23　暗灰褐色土（褐色強い）
24　暗灰褐色土（暗褐色強い）
25　暗灰褐色土（灰褐色強い）
26　暗灰褐色土（灰色強い）
27　暗褐色土
28　暗褐色土（炭化物少量混、ローム粒混、柱痕跡）
29　暗褐色土（脆い、炭化物・ローム粒混）
30　暗褐色土（ローム粒混）
31　暗褐色土（灰褐色土ブロック混）
32　暗褐色土（灰褐色土混）
33　暗褐色土（黄色粘土混、P406埋土）
34　暗褐色土（P177埋土）
35　暗黄褐色土
36　暗黄褐色土（柱痕跡）
37　暗黄褐色土（脆い、柱痕跡）
38　暗黄褐色土（脆い）
39　暗黄褐色土（炭化物・ローム粒混）
40　暗黄褐色土（炭化物混、ローム粒多混）
41　暗黄灰色土
42　暗黄灰色土（暗褐色粒混）
43　暗黄灰色土（暗褐色粒多混）
44　暗灰色土
45　褐色土
46　灰褐色土
47　黄灰褐色土

第６表　SB1ピット計測表

番号	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　　考
P１	52	49	44	身舎柱穴（柱痕跡あり）開元通寶出土
P２	64	60	112	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P３	68	53	58	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P４	52	52	30	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P５	62	51	58	身舎柱穴（柱痕跡あり）至道元寶出土
P６	54	50	34	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P７	73	73	63	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P８	65	60	46	身舎柱穴（柱痕跡あり）元祐通寶出土
P９	62	50	41	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P10	57	68	43	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P11	58	66	38	身舎柱穴（柱痕跡あり）元豊通寶出土
P12	53	54	32	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P13	60	48	20	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P14	48	49	30	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P15	65	53	41	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P16	60	58	42	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P17	45	48	52	柱穴（柱痕跡あり）
P18	52	49	68	柱穴（柱痕跡あり）
P19	45	41	※28	廂柱穴（柱痕跡あり）
P20	53	52	34	廂柱穴（柱抜き取り）
P21	59	51	47	廂柱穴
P22	56	46	25	廂柱穴（柱痕跡あり）
P23	79	71	47	廂柱穴（柱痕跡あり）
P24	66	63	40	廂柱穴（柱痕跡あり）
P25	49	48	34	廂柱穴（柱痕跡あり）
P26	52	42	24	廂柱穴
P27	63	52	37	廂柱穴（柱痕跡あり）
P28	68	65	41	廂柱穴（柱痕跡あり）

※は復元値



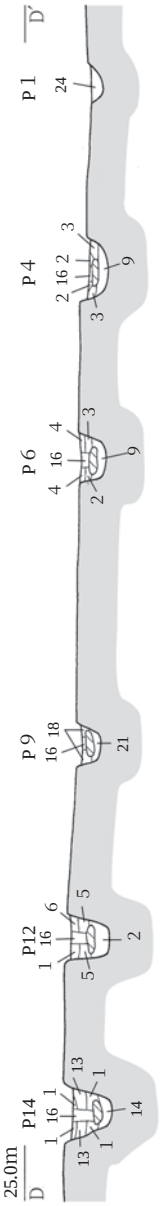


1　暗黄灰褐色土
2　暗黄灰褐色土（黄色強い）
3　暗黄灰褐色土（褐色強い）
4　暗黄灰褐色土（灰色強い）
5　暗黄灰褐色土（褐色強い、炭化物混）
6　暗黄灰褐色土（橙褐色ブロック多混）
7　暗灰褐色土
8　暗灰褐色土（しまり強）
9　暗灰褐色土（白色砂粒混）
10　暗灰褐色粘質土
11　暗灰褐色粘質土（しまり強）
12　暗褐色土
13　暗褐色土（1層のブロック混）
14　暗褐色土（ローム粒混）
15　暗褐色土（しまり強）
16　暗黄褐色土（柱痕跡）
17　暗黄褐色土（橙褐色ブロック混、柱痕跡）
18　黄褐色土
19　黄褐色土（しまり強、粘性あり）
20　黄褐色土（19層より暗い）
21　暗灰色土（黄褐色ブロック混）
22　暗灰白色土（しまり強）
23　黄灰褐色土（炭化物少量混）
24　暗灰白色粘質土（しまり強、緻密）
25　淡黄灰褐色土（柱痕跡か）
26　淡灰褐色土
27　淡褐色土

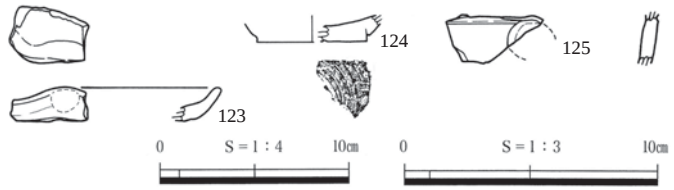
平面検出した柱痕跡

0　S＝1：80　2 m

第40図　SB2



第41図　SB２土層断面



第42図　SB２出土遺物

第７表　SB２ピット計測表

番号	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　　考
P1	42	38	16	身舎柱穴
P2	51	47	13	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P3	31	24	4	身舎柱穴
P4	66	51	30	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P5	40	36	10	身舎柱穴
P6	49	47	28	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P7	36	34	10	身舎柱穴
P8	44	32	14	身舎柱穴
P9	48	46	27	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P10	48	48	41	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P11	53	45	50	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P12	49	46	47	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P13	60	47	43	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P14	62	58	52	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P15	52	46	51	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P16	53	50	57	身舎柱穴（柱痕跡あり）
P17	42	37	27	廂柱穴（柱痕跡あり）
P18	40	38	16	廂柱穴（柱痕跡あり）
P19	38	37	29	廂柱穴（柱痕跡あり）
P20	52	49	44	廂柱穴（柱痕跡あり）
P21	45	38	33	廂柱穴（柱痕跡あり）
P22	35	33	16	廂柱穴（柱痕跡あり）

固に基礎固めを行ったところもある。

身舎の東面と南面には矩折れに１間通りの廂がとりつく。柱間距離は身舎に比べ短く、1.5m前後となる。北側でも廂の存在が想定されたが、柱穴は確認できなかった。

廂の柱掘方はP19～P28で、直径40～70㎝、平面円形あるいは楕円形を呈する。深さは復元値のものを含めても30～50㎝と身舎柱に比べ浅い。柱痕跡は大半で確認し、平面円形の柱材は身舎の柱と同様、直径12～20㎝に復元できる。礎盤石はP23・24・28の三か所で使用が認められた。

身舎西妻のさらに西側でも柱穴P17・18を検出した。柱位置は棟通りとその南側の桁行柱筋の延長上に対応する。柱掘方の規模・形態は身舎柱のそれとほぼ同じである。P15－P17、P16－P18の柱間距離は2.5mと身舎や廂の柱間距離に比べ長い。身舎柱同様、礎盤石を用いた構造であることから、身舎に伴う一連の柱穴であると考えられる。また西妻梁行の柱列（P14～P16、P28）のさらに西側にも、それぞれに対応する小ピット、あるいは礎盤石より一回り小さい扁平な石があり、それらも身舎に伴う可能性がある。建物全体の復元については第５章第４節で述べることとする。

そのほかSB１の中央間以西では多数のピットが検出された（第84図）。これらの中にはSB１建設時の足場穴や建物に付属する補助的な柱穴などに該当するものもあると思われる。しかし、建物の西側に比べ、遺構面が若干高く残る東側ではほとんどピットが検出できなかったため、それらのピットをSB１に関連する遺構として積極的に評価することは難しい。

またSB１の身舎柱掘方の深さが40～50㎝と比較的浅いものが多く、本来の地表面は少なからず削平を受けているものと思われる。よって、一般的に掘方の浅い足場穴なども削平を受けた可能性が高いであろう。

SB１の柱穴からは小片の土器や鉄製品、鉄滓、銭貨などが出土した。土器には土師器坏、皿（116、120、121）、鍋117（八峠中世Ⅲ期）、瓦質土器119、中世須恵器（勝間田焼）122、青磁118（外面に箆

描きによる蓮弁文あり。森田分類：龍泉窯系青磁碗Ⅰ－５か）などがある。いずれも掘方埋土からの出土で、建物の廃絶期を示す遺物はない。

銭貨はP1から開元通寶（唐：621年初鋳）、P5から至道元寶（北宋：995年初鋳）、P8から元祐通寶（北宋：1086年初鋳）、P11から元豊通寶（北宋：1078年初鋳）がそれぞれ出土した。

柱を立てる工程として①掘方掘削→②礎盤石据付→③柱を立てる→④数回に分けて柱周りを埋めたてるという、大きく四段階の工程が想定される。SB１ではP11を除く全てが③の直後あるいは④の最初に銭貨を納めている。おそらくこれらは柱を立てる際に意図的に埋められたもので、建設時の地鎮に関連した埋納品であったものと考えられる。

掘方埋土に含まれる遺物から判断して、13世紀以降の掘立柱建物であると考えられる。　（西川）

SB２（第40・41・42図、第７表、PL.14・15・31・42）

D8・E8グリッドの平坦面に位置する。調査区８グリッドラインと９グリッドラインのほぼ中間以西は後世の撹乱を大きく受けており、以東に比べ25～30cmほど低く、遺構の遺存状態は全体的に悪い。

南北棟の掘立柱建物で、主軸をN－５°－Wにとる。身舎は柱間が桁行５間×梁行２間。柱間距離は桁行の中央間が約３m。そのほかは桁行・梁行とも2.1m前後である。

身舎の柱掘方はP1～P16で、比較的残りのよい南半では直径が45～60㎝、平面は円形か楕円形を呈する。深さは40～60㎝である。SB１同様、柱掘方の底面付近に礎盤石を据え、その上に柱を立てている。ただし、P2では礎盤石を使用していない。遺構面は北側ほど削平が著しく、P1・P3に関しては礎盤石が用いられていたかどうかは不明である。柱痕跡は大半の柱穴で確認した。平面で確認できたものはすべて円形で、復元できる柱径は10～16㎝である。P13は礎盤石を二個積み重ねた上に柱を立てていた。これは材を組上げた際の柱の長短を調整するためであろう。

身舎の西面には１間の廂がつく。梁行の柱間距離は身舎に比べ少し短く、1.8m前後となる。廂の柱掘方はP17～P22で、比較的残りのよい南半では直径30～50cm、平面円形あるいは楕円形である。深さは復元値のものを含めて20～45㎝と、身舎柱に比べて小規模で浅いものが多い。

廂部分の柱穴には礎盤石を用いないが、P19底面の埋土は粘土質で非常に固く締っていた。これは柱の沈み込みを防ぐための基礎固めであったと考えられる。

SB2の柱穴からは少量の土器が出土した。123は底部回転糸切の土師器皿である。側縁を内側に折り曲げた痕跡を残しており、耳皿の可能性もある。125はごく小片であるが、褐釉を施した陶器である。外面には横位の沈線１条に接して浅くくぼむ円形の剥離面を残しており、把手あるいは耳が付いていたものと思われる。水注の胴部片であろうか。

SB２の柱掘方は大半がSB１と同様の状況で埋土が遺存していたが、銭貨の出土はまったく認められなかった。

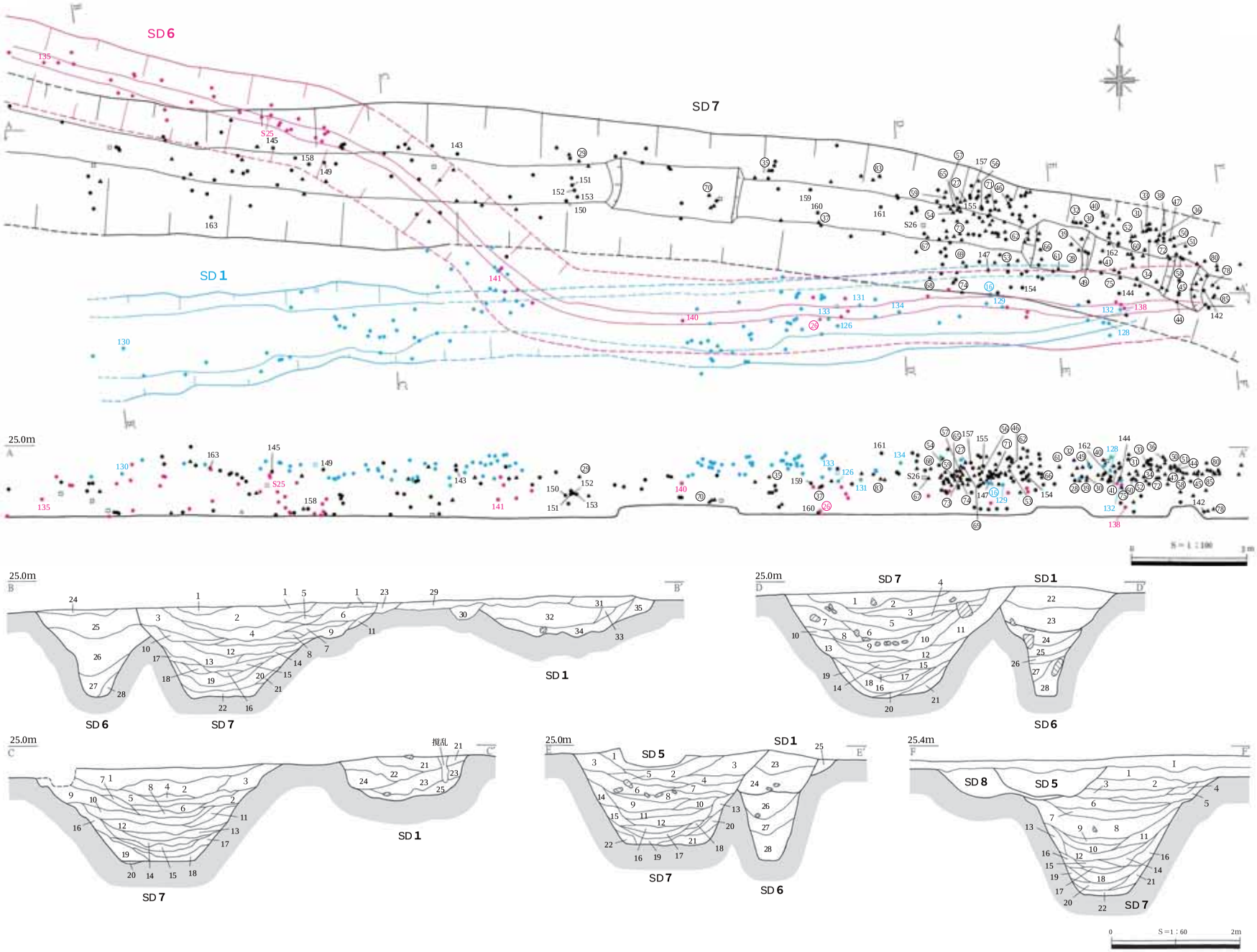
出土遺物の時期はSB１と大差なく、ほぼ同時期の13世紀以降の掘立柱建物であると思われる。

（西川）

（４）溝

SD１（第43・44図、PL.15・31・42）

G8～G11グリッドに位置する。中央でSD６を切り、東側でSD７・８に切られている。また、西側は後世の撹乱により途切れ、中央部には試掘坑がかかる。検出した長さは約26mで、東西方向に主軸をとる。走向は直線的で、最大幅は約2.7mである。検出面からの深さは約70㎝で、断面形は緩やかに



B－B’　<1～22:SD7埋土　24～28:SD6埋土　31～35:SD1埋土>
1 褐色土　2 暗褐色土(白色粒混)　3 暗褐色土(白色粒・砂混)4 暗褐色土(白色粒・鉄分混)　5 暗褐色土(炭化物混)　6 暗褐色土(白色粒混)　7 暗褐色土(3cm大のローム粒混)　8 暗褐色土(3mm大のローム粒混)　9 褐色土(3mm大のローム粒混)10 暗褐色砂質土(炭化物混)11 暗褐色土(白色粒・5mm大のローム粒混)　12 暗灰褐色土(5mm大の炭化物混)　13 暗褐色土(5mm大のローム粒混)　14 褐色土(2cm大のローム粒・鉄分混)15 褐色土(4cm大のローム粒・鉄分混)　16 暗褐色砂質土17 暗褐色土(5mm大の炭化物混)　18 黒褐色土(白色粒混)19 暗灰褐色砂質土(鉄分混)　20 褐色土(3cm大のローム粒混)21 暗褐色土(10mm大のローム粒混)　22 暗褐色砂質土(3mm大のローム粒混)　23 褐色土(しまりやや強[撹乱か])　24 褐色土(白色粒・2mm大のローム粒混)　25 暗褐色土(白色粒・鉄分・5mm大のローム粒混)　26 暗褐色土(10mm大のローム粒・炭化物混)　27 暗褐色土(粘性やや強、5mm大のローム粒混)28 暗褐色土　29 褐色土(赤色粒混)　30 暗褐色土(粘性やや弱、白色粒混)　31 褐色土(3mm大のローム粒混)32 [=C24層]　33 暗褐色土(3mm大のローム粒多混)34 [=C25層]　35 暗褐色土(3mm大のローム粒・白色粒混)

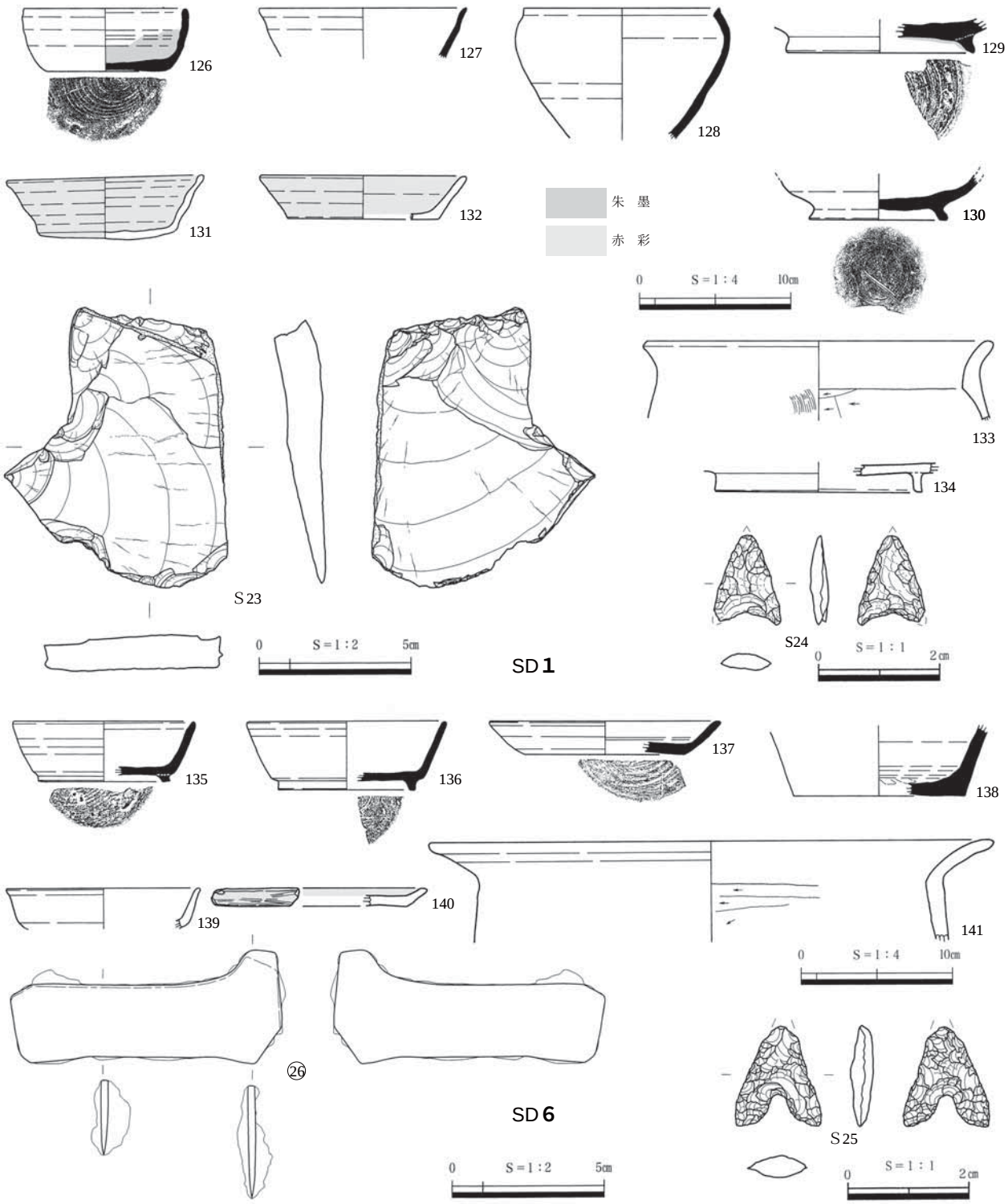
C－C’　<1～19:SD7埋土　20:SD6埋土　21～25:SD1埋土>
1 暗褐色土(白色粒混)　2 暗灰褐色砂質土　3 褐色土(粘性やや弱、白色粒混)　4 褐色土(粘性やや強)　5 暗褐色土(粘性やや弱、3mm大のローム粒混)　6 暗灰褐色土　7 暗褐色土(5mm大のローム粒混)　8 暗灰褐色砂質土(3mm大の炭化物混)9 褐色土(粘性やや弱、白色粒混)10 褐色土(砂・5mm大のローム粒混)　11 暗褐色土(赤色粒混)　12 暗灰褐色土(砂・3mm大の炭化物混)　13 暗灰褐色砂質土　14 暗灰褐色砂質土(2mm大の炭化物混)　15 暗灰褐色砂質土　16 褐色土(粘性やや弱)17 暗灰褐色土　18 暗灰褐色土(粘性強、5mm大の灰白色粒混)19 暗褐色土(粘性やや弱)　20 暗褐色土(5mm大のローム粒混)21 褐色土(3mm大のローム粒混)　22 暗褐色土(白色粒混)23 褐色土(2cm大のローム粒混)　24 暗褐色土(白色粒・2mm大のローム粒混)　25 黒褐色土(白色粒・2mm大のローム粒混)

D－D’　<1～21:SD7埋土　22・23:SD1埋土　24～28:SD6埋土>
1 暗褐色土(白色粒混)　2 [=C2層]　3 暗灰褐色砂質土(砂混)4 灰褐色砂質土　5 暗褐色土(拳大の礫混)　6 暗褐色土(3mm大のローム粒混)7 暗褐色土(礫・3mm大のローム粒混)　8 褐色土(礫・3mm大のローム粒混)　9 暗褐色土(拳大の礫・砂混)10 褐色土(3mm大のローム粒混)11 褐色土(白色粒混)　12 [=C13層]　13 暗褐色土(3mm大の炭化物混)14 [=C14層]15 暗灰褐色砂質土　16 [=C15層]17 暗褐色土(粘性やや弱、砂・3mm大の炭化物混)　18 暗褐色土　19 褐色土(5mm大のローム混)　20 灰褐色砂質土(鉄分混)　21 暗灰褐色砂質土　22 褐色土(鉄分・5mm大のローム粒混)　23 暗褐色土(10mm大のローム粒混)24 暗褐色土(3mm大のローム粒混)　25 黒褐色土(5mm大のローム粒混)26 暗灰褐色土(鉄分・5mm大のローム粒混)27 暗灰褐色土　28 黒褐色土(5mm大のローム粒混)

E－E’　<1～22:SD7埋土　23～24:SD1埋土　25～28:SD6埋土>
1 暗褐色土　2 [=C2層]　3 褐色土(粘性やや弱、白色粒・3mm大の炭化物混)　4 褐色土(3mm大ローム粒・鉄分混)　5 [=D3層]　6 [=D5層]7 褐色土(赤色粒・3mm大のローム粒混)8 [=D9層]　9 [=D12層]　10 暗褐色土(粘性やや弱、砂混)11 暗褐色土(砂・5mm大の炭化物混)12 [=D16層]　13 褐色土(3mm大のローム粒混)　14 褐色土(白色粒混)15 暗褐色土(鉄分混)　16 暗褐色土(砂混)　17 暗灰褐色土(粘性強い)18 暗灰褐色土　19 鉄分沈着層　20 灰褐色砂質土(鉄分混)　21 [=D21層]　22 褐色土(粘性やや弱、鉄分・3mm大のローム粒混)23 [=D22層]　24 [=D23層]　25 褐色土(鉄分・3mm大のローム粒混)　26 [=D24層]　27 [=D25層]　28 [=D28層]

F－F’　<2～22:SD7埋土>
1 [=基本層序Ⅱ-4]　2 褐色土(3mm大のローム粒混)　3 暗褐色土(砂少混、3mm大のローム粒混)　4 褐色土　5 暗褐色土(砂少量混)　6 褐色土(赤色粒・5mm大のローム粒混)　7 暗灰褐色砂質土　8 褐色土(砂少混・炭化物混)　9 暗褐色砂質土10 暗褐色土(砂少混・炭化物混)　11 暗褐色土(鉄分・炭混)12 暗褐色土(炭化物混)　13 暗褐色土(粘性やや弱、鉄分・3mm大のローム粒混)　14 暗灰褐色土(砂少量混、炭化物混)15 暗灰褐色砂質土(炭化物混)　16 暗褐色土(粘性強、鉄分混)17 暗灰褐色砂質土　18 暗灰褐色土(粘性強)　19 褐色土(10mm大の灰白色粒混)　20 暗灰褐色土　21 暗褐色土　22 暗褐色土(3mm大の灰白色粒混)

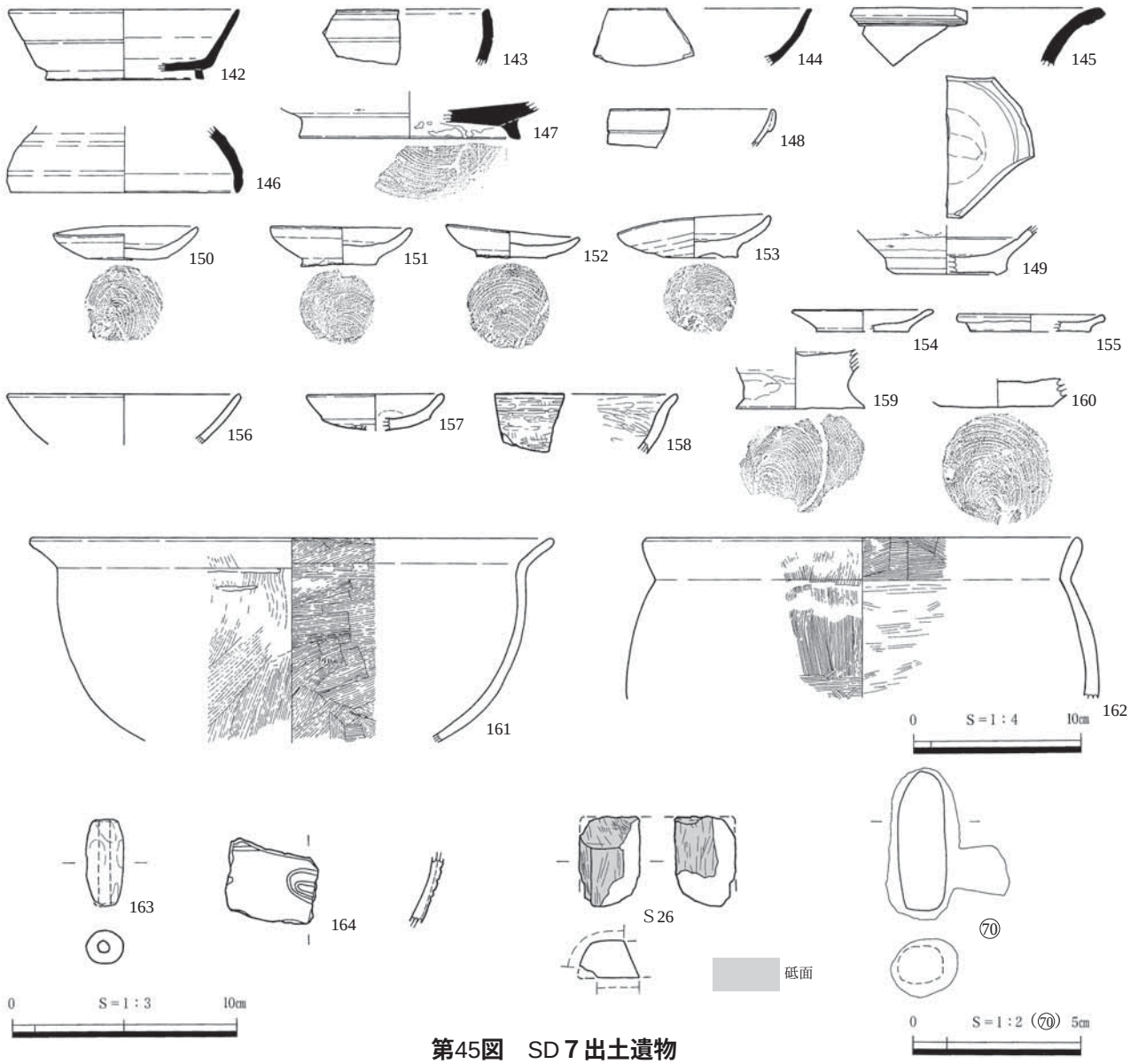
第43図　SD１・６・７



第44図　SD１・６出土遺物

開くＵ字形を呈する。溝底面の標高は東端で約24.2m、西端で約24.1mであり、西側がわずかに低い。埋土は暗褐色土、黒褐色土、褐色土が主体で、黄褐色粒、白色粒が混じる。粘質土や砂礫などはみられず、流水または滞水していた痕跡は認められない。

遺物は埋土中から土器、石器、鉄滓が出土した。須恵器坏126は底部内面・断面に朱墨が付着しており、パレットに転用された可能性が高い。土器の特徴から、埋没時期は９世紀頃と考えられる。形状・断面形から判断して人為的に掘られたものであるが、溝の性格については、重複するSD６・７と同様に区画溝として機能していた可能性が高い。（山根）



第45図　SD７出土遺物

SD６（第43・44図、PL.16・32）

G8・F8～F11グリッドに位置する。西側から中央はSD７に、中央から東側はSD１に切られている。検出した長さは約33mで、東側から中央にかけては、東西方向に主軸をとるが、中央で北西方向に向きを変え、緩やかな弧状を描きながら西の調査区外へとのびる。幅は肩部がSD１・７によって壊されているため明確ではないが、約２m程度と推測される。検出面からの深さは約1.3～1.5mで、断面形は、溝底面から1/3～1/2の高さで段をもち、上半は緩やかに開くU字形、下半は深い逆台形を呈する。溝底面の標高は東端で約23.2m、西端で約23.1mと西側がわずかに低い。埋土は暗褐色土が主体で、黄褐色粒や、拳大から人頭大の礫が少量混じる。やや粘性が強い層などもみられたが、砂層などはなく、礫も混入した状況であることから、流水あるいは滞水していた可能性は低い。

遺物は埋土中から土器・鉄製品などが出土した。土器はいずれも高広編年Ⅳ～Ⅴ期に位置づけられること、SD１に先行することから、埋没時期は８世紀後半から９世紀頃と考えられる。

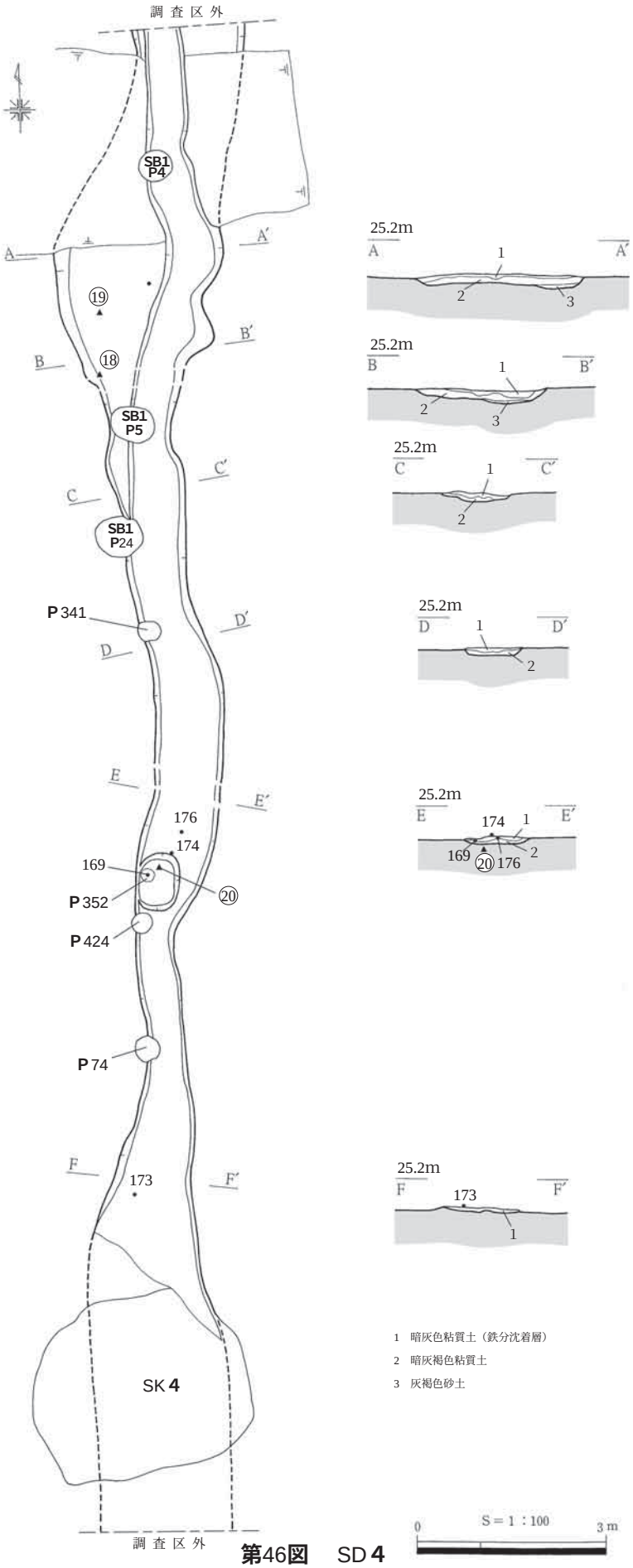
形状・断面形から判断して人為的に掘られたものと考えられる。SD６につづき、SD１・７がほぼ同じ場所に繰り返し掘り込まれている点を考慮すると、地境を示す区画溝として機能していた可能性が想定される。（山根）

SD７（第43・45図、PL.16・17・33・34）

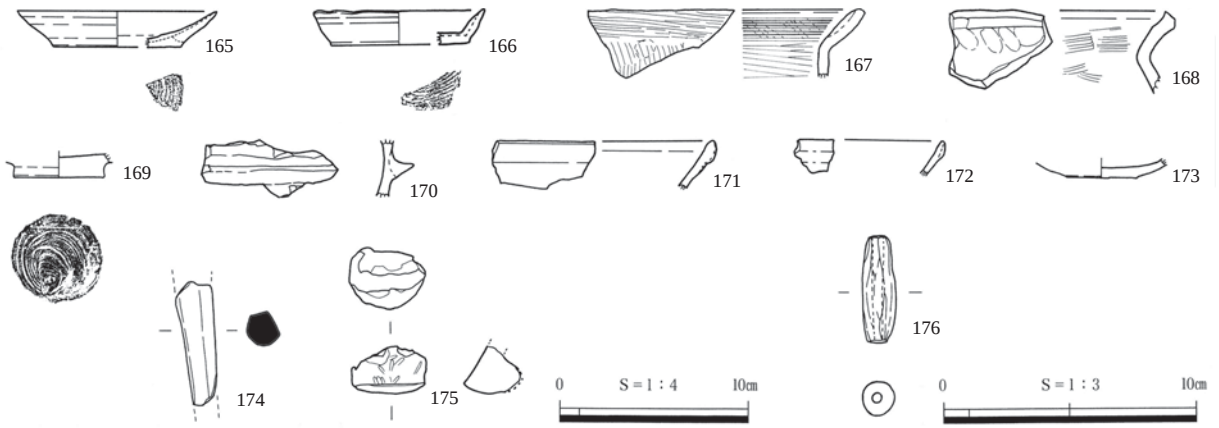
F8～F11グリッドに位置する。SD１・６・９を切り、SD５・８に切られている。検出した長さは約32mで、ほぼ東西方向に主軸をとる。東端・西端いずれも調査区外にのびる。走向は直線的で、幅は約３～3.5mである。検出面からの深さは約1.5mで、断面形は逆台形を呈する。溝底面の標高は東端・西端ともに約23.1mで、ほぼ同じ高さである。また溝底面には、地山を掘り残した段状の高まりが３箇所認められた。段の高さはいずれも約15～20㎝程度であるが、段の幅は西側のものが約３m、中央のものが約1.2m、最も東のものが約0.6mである。埋土は暗褐色土が主体で、黄褐色粒、白色粒や拳大の礫が混じるが、灰褐色の砂質土や粘質土もみられた。礫や砂質土などの堆積状況から、上層、中層、下層に分け、掘り下げを行った。また、埋土中や溝底面付近では鉄分の沈着がみられた。

遺物は上層から下層にかけて土器、石器、鉄製品、鉄滓が出土し、特に鉄滓は東側で集中して出土した。土器の特徴から、埋没時期は12世紀頃と考えられる。また、時期は明確にできないが、絵画土器と考えられる164も出土している。

形状・断面形から判断して人為的に掘られたものであり、溝の性格については、重複するSD１・６と合わせて、区画溝として機能していたと考えられる。また、砂質土や粘質土、鉄分沈着層などの存在は、滞水していた状況を示すものである。底面にみられた段状の高まりは、用水としての機能と関係



第46図　SD４



第47図　SD４出土遺物

する可能性もある。また鉄滓が東側に集中する状況から、東側の調査区外に鍛冶関連遺構が存在する可能性が高い。（山根）

SD４（第46・47図、PL.15・32・34）

B7～D7グリッドの平坦面に位置する南北溝である。南端ではSK４を掘り込み、北端ではSI６を掘り込む。また北端ではSB１の柱穴が重複する。

現状では溝の上層が大きく削平を受け、ごくわずかに溝の底面をとどめているのみである。溝幅は0.25～1.1m、深さは最深部でも30㎝を超えない。埋土は北端の下層に水流を示す砂質土の堆積があり、その上層には鉄分が沈着して硬化した暗灰色粘質土が南端まで広がる。南端の溝底面の標高が24.7m、北端では24.4mであることから、SD４は本来、南から北へ向かっての水の流れがあったことを示す。また堆積土の状況から見て、ある時期以降は滞水していたと思われる。

出土した土師器類は八峠中世Ⅲ期、陶磁器は森田碗Ⅳ類（171、172）、皿Ⅵ類（173）に想定され、12～13世紀以降の時期を示すものと思われる。（西川）

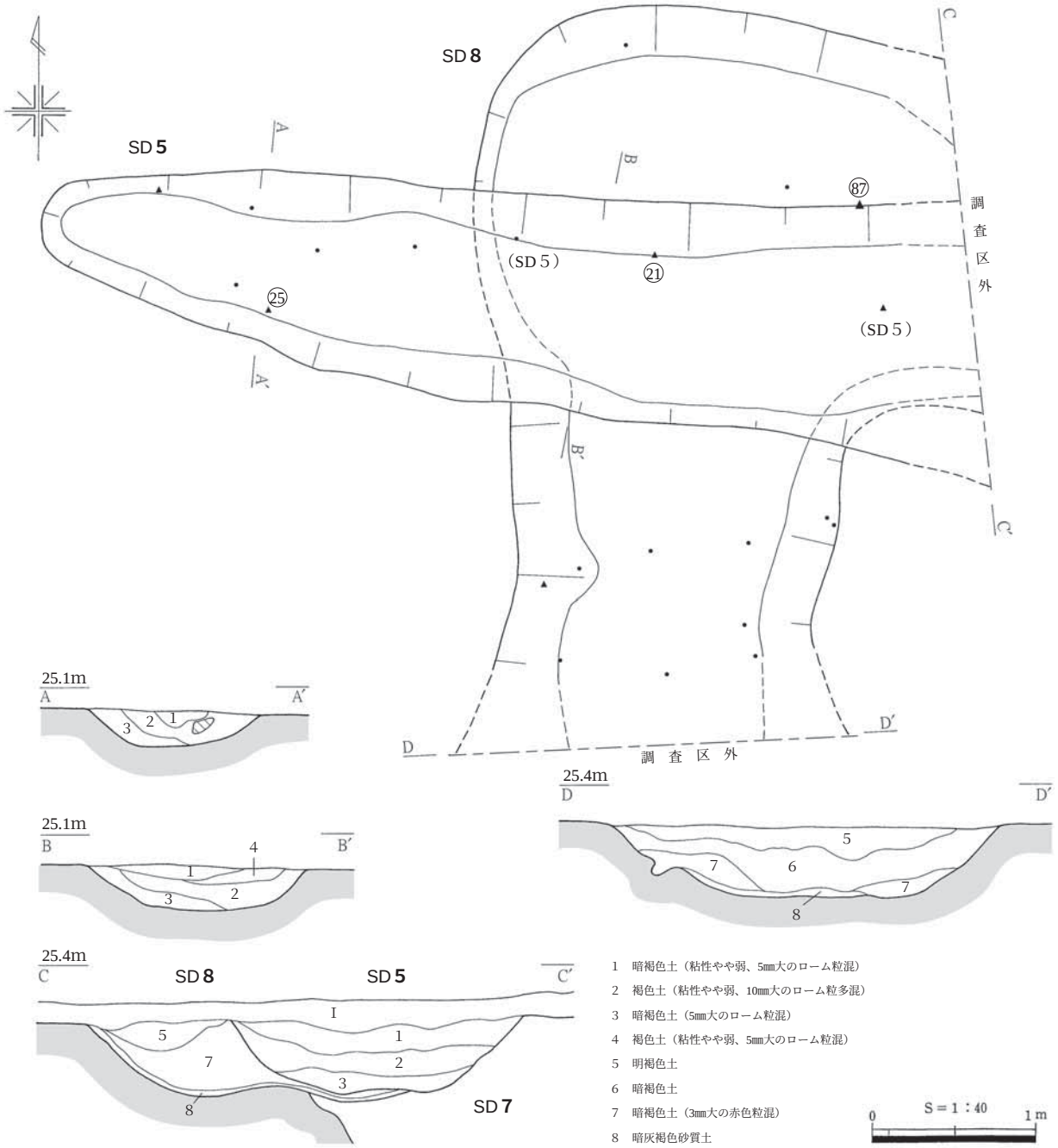
SD５（第48・49図、PL.16・42）

F8グリッド南東寄りに位置する。SD7・８を切る。 検出した長さは約６mで、北西－南東方向に主軸をとる。南東端は調査区外にのびている。走向は直線的で、幅は約0.6～1.5mである。検出面からの深さは約20～30㎝で、断面形はＵ字形を呈する。溝底面の標高は北西端で約24.7m、南東端で約24.6mであり、南東側がわずかに低い。埋土は暗褐色土、褐色土で、砂礫等はみられず、流水などの痕跡は認められない。遺物は埋土中から土器片が数点出土した。図示できたものは青磁破片177の１点のみである。13世紀以降に位置づけられるものであり、溝の埋没時期を示すものと考えられる。ただしSD７あるいはSD８埋土からの混入の可能性もある。

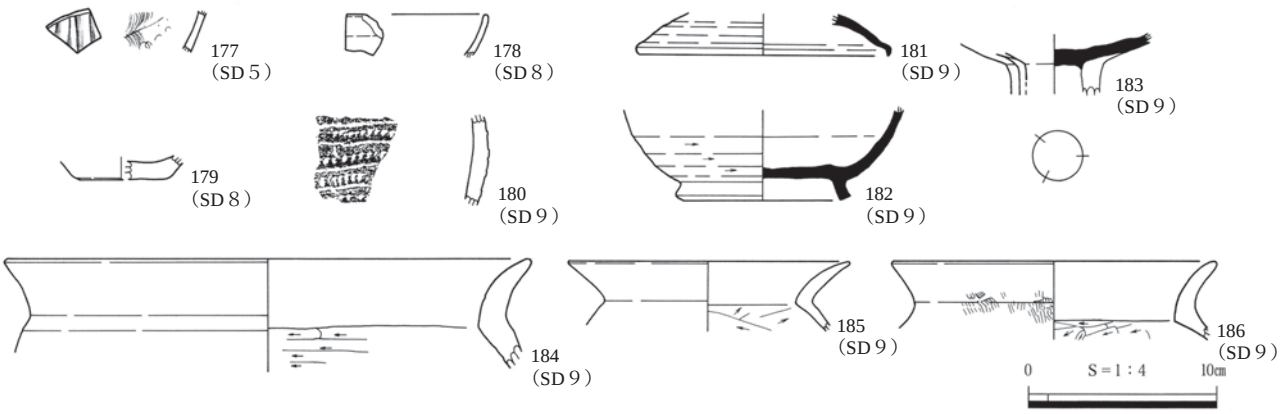
形状や埋土の状況から人為的に掘られた溝と考えられるが、溝の性格は不明である。（山根）

SD８（第48・49図、PL.17・35・42）

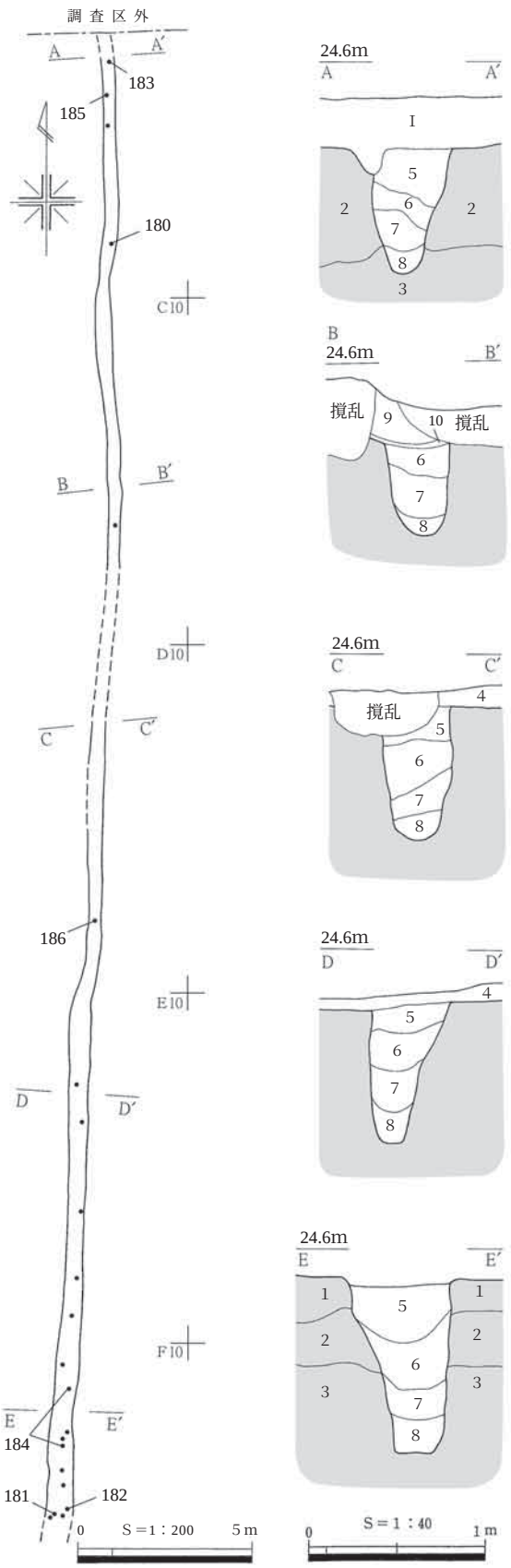
F8・G8グリッド、調査区南東隅に位置する。SD１・７を切り、SD５に切られている。検出した長さは約4.5mである。幅は約２mで、北側では約2.3mとやや広がる。検出面からの深さは約30～40㎝で、断面形は浅い皿状を呈する。溝底面の標高は北端で約24.6m、南端で約24.7mであり、北側がわずかに低い。埋土の最下層では厚さ約２～６㎝の砂質土が堆積していた。これは一時期流水または滞水していた痕跡と考えられる。遺物は埋土中から土器片が数点出土した。土器の特徴から、埋没時期は12世紀と考えられるが、SD１・７の埋土から混入した土器の可能性もある。



第48図　SD５・８



第49図　SD５・８・９出土遺物



1　暗褐色土（［＝基本層序Ⅲ-5］）
2　黒褐色シルト（［基本層序Ⅳ］と対応）
3　暗褐色シルト（［＝基本層序Ⅴ'］）
4　鉄分沈着層（［＝基本層序Ⅱ-5］）
5　褐色土（炭化物・3㎜大のローム粒混）
6　褐色土（しまりやや弱、暗黄褐色粒少量混）
7　暗褐色土（砂少量混・炭化材混）
8　暗褐色土
9　暗黄褐色土（しまりややあり）
10　暗灰褐色土（しまりあり）

第50図　SD９

埋土の状況から人為的に掘られた溝と判断したが、溝の性格は不明である。　（山根）

SD９（第49・50図、PL.17・35）

B10～F10グリッドに位置し、ほぼ中央でSK９に、南端でSD７に切られている。またD10杭の西側では旧赤碕町の試掘第５トレンチにより、約５mにわたって破壊されている。検出した長さは約45mであり、南北方向に主軸をとる。北側はさらに調査区外へとのびる。走向はほぼ直線的で、幅は約40～60㎝である。検出面からの深さは約80～90㎝で、断面形は深い逆台形ないしU字形を呈する。溝底面の標高は北端・南端でいずれも約23.4mであり、高低差はほとんどみられないが、中央部では約23.5mとわずかに高い。埋土は褐色土、暗褐色土が主体となっており、流水または滞水していた痕跡は認められない。

遺物は埋土中から土器片十数点が出土し、そのうち７点を図示した。遺構の埋没時期を示すのは須恵器底部182、土師器甕184～186であり、７世紀末頃に位置づけられる。

形状から人為的に掘られたものと判断したが、溝の性格については不明である。　（山根）

（５）土坑

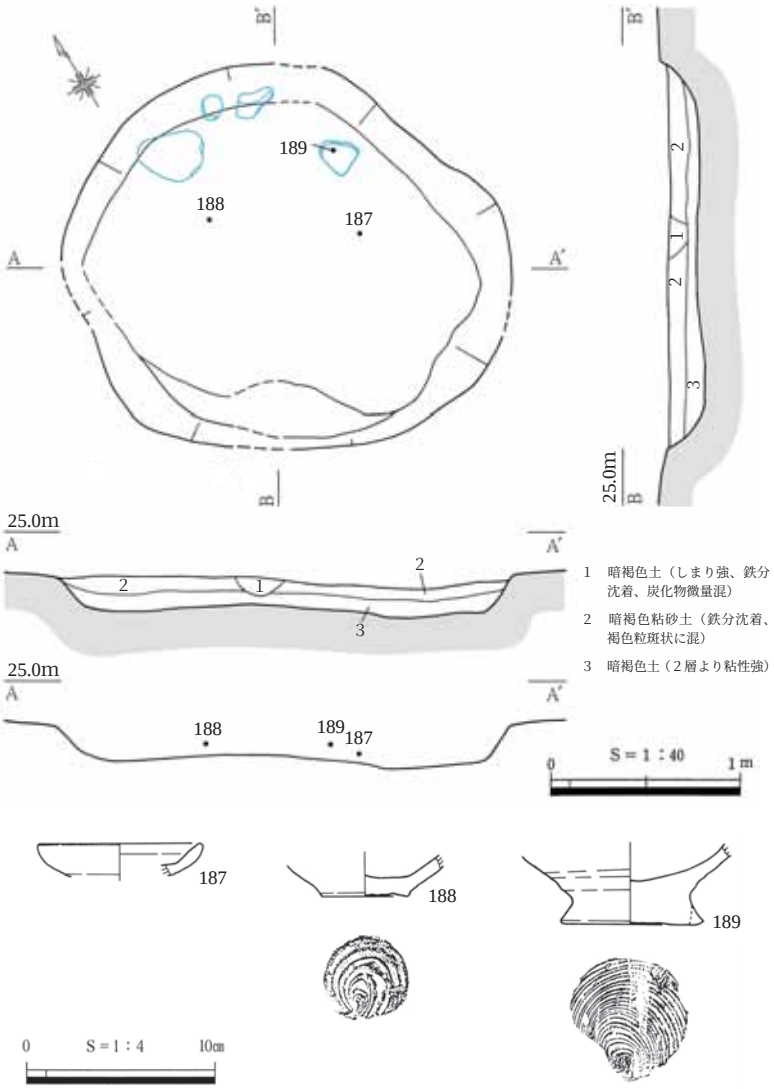
SK１（第51・52図、PL.18・36）

C6グリッドに位置し、北縁がSI３を切る。主軸が北西－南東方向にとる楕円形を呈し、長軸約2.4m、短軸約2.1m、検出面からの深さ約20㎝である。底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色土を主体とし、２、３層はほぼ水平に堆積している。また、埋土中には鉄分の沈着や炭化物の混入がみられる。遺物は土器片数点が出土した。また、坑底に接して拳大～人頭大の礫４点が検出された。礫の１点には、SI２出土礫と同様に朱が付着していた。土器は八峠中世Ⅱ～Ⅲ期の特徴を示すことから、遺構の埋没時期は

12～13世紀代と考えられる。遺構の性格は不明である。　　（君嶋）

SK２（第53・54図、PL.18・43・45）

B5グリッドに位置し、SD２の埋土中に掘り込まれている。平面形は長軸約1.7m、短軸１mの長方形を呈し、主軸方位はN－10°－Eである。検出面からの深さは約20㎝で、底面はほぼ平坦である。埋土は３層に分層される。２、３層は水平な堆積であるが、１層は掘り返されたか、上から陥没したような落ち込みを呈する。１、２層は砂質土で、弥生土器の小片を含む。おそらくSD２の埋土に由来するものであろう。遺物は、北端近くから和鏡C5が、中央付近から輪状の鉄製品⑩～⑮が出土した。和鏡、輪状鉄製品はともに坑底から５～７㎝高い位置で出土した。これら遺物の出土レベルが３層上面にほぼ一致することから、３層は副葬前に既に坑底に充填されていた可能性がある。他に鉈と想定される鉄製品⑯が出土している。

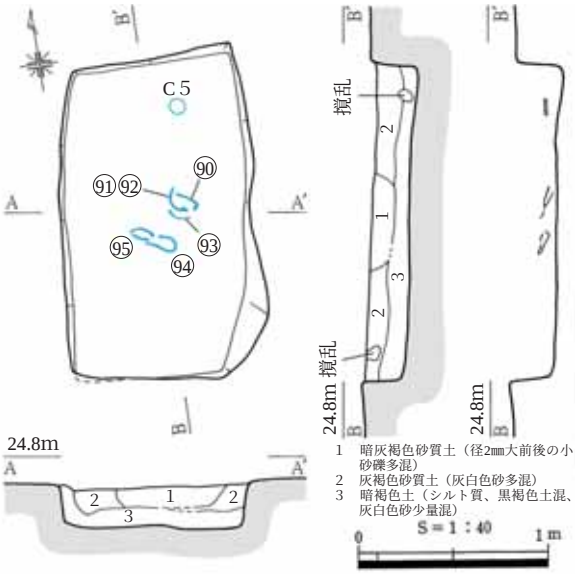


第52図　SK１出土遺物

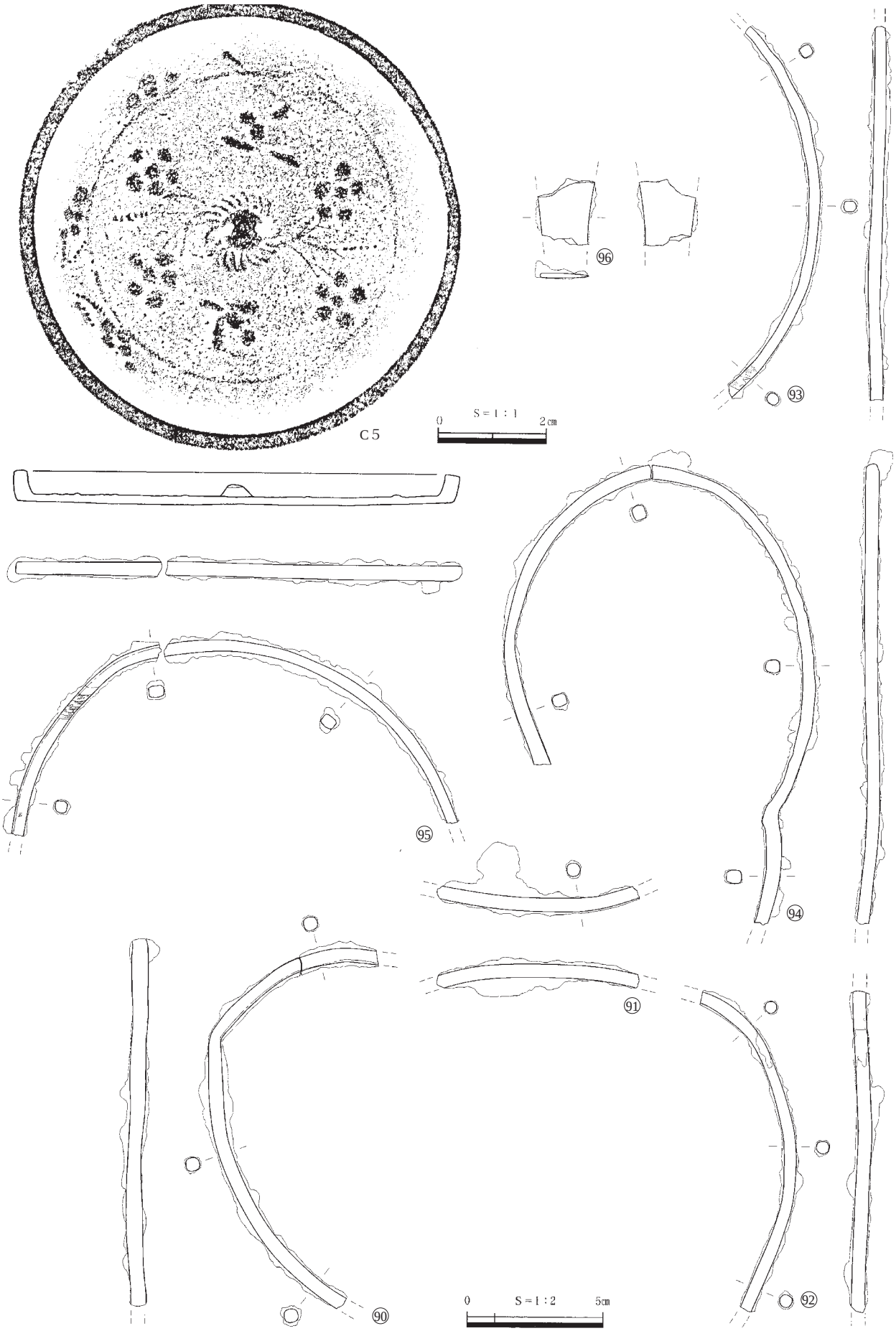
これらの出土遺物および土坑の形状から、本遺構は墓壙と考えられる。ただし、木棺等の痕跡は確認できなかった。出土した和鏡の年代は12世紀半ば頃である。　　（君嶋）

SK３（第55・58図、PL.18・38）

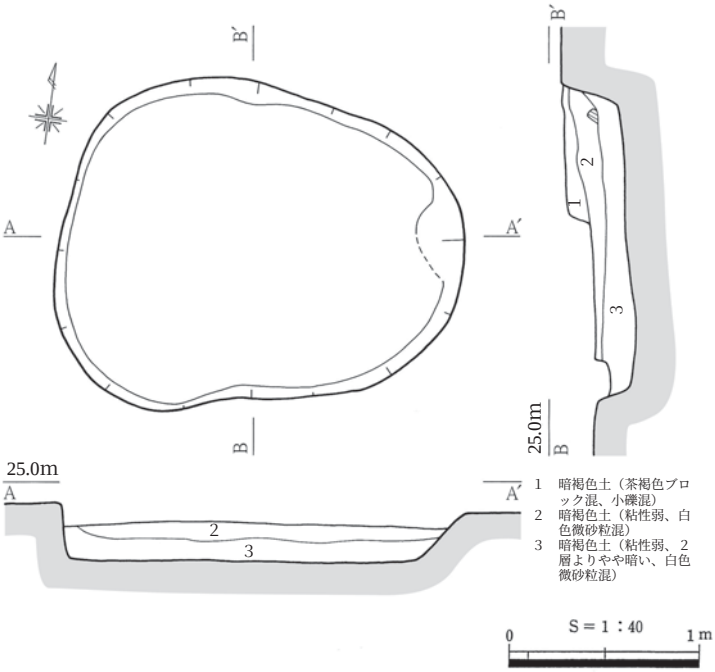
C4・D4グリッドに位置する。平面形は、東西方向に主軸をとる楕円形を呈し、長軸約2.15m、短軸約1.7mである。検出面からの深さは最大で約30㎝であり、底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色土を主体とし、ほぼ水平に堆積している。遺物は、埋土中より土器数点が出土した。図示した195は底部回転糸切の土師器である。遺物の特徴から、遺構の埋没時期は平安時代と考えられる。遺構の性格は不明である。　　（君嶋）



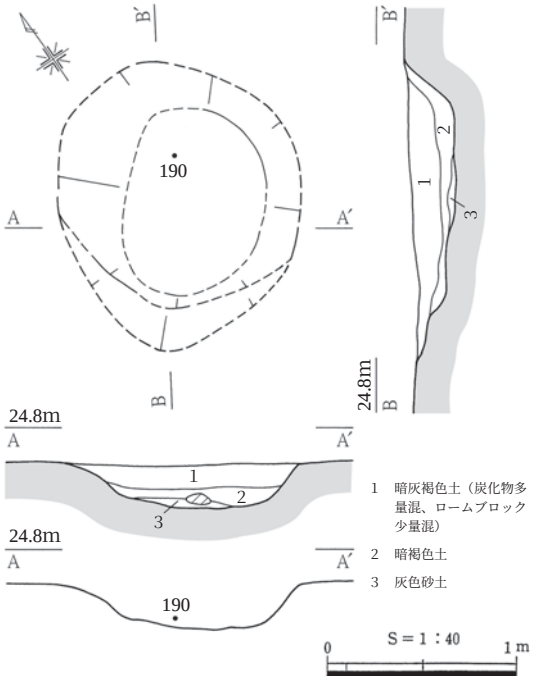
第53図　SK２



第54図　SK２出土遺物



第55図　SK３



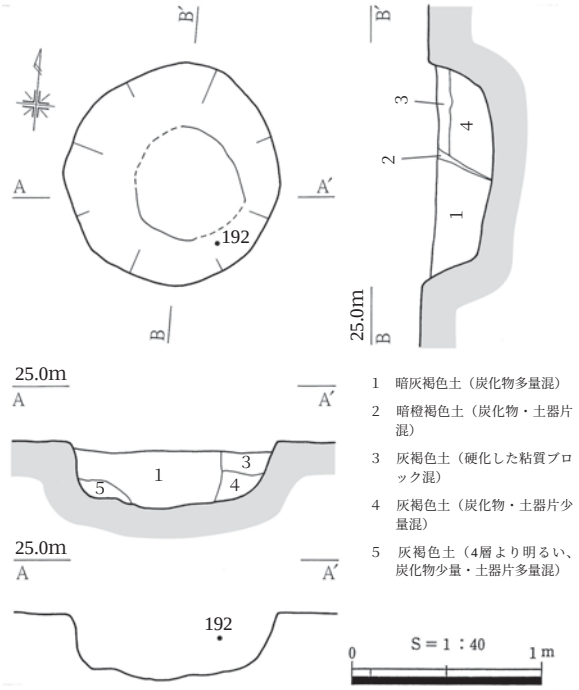
第56図　SK５

SK５（第56・58図、PL.18・38・42）

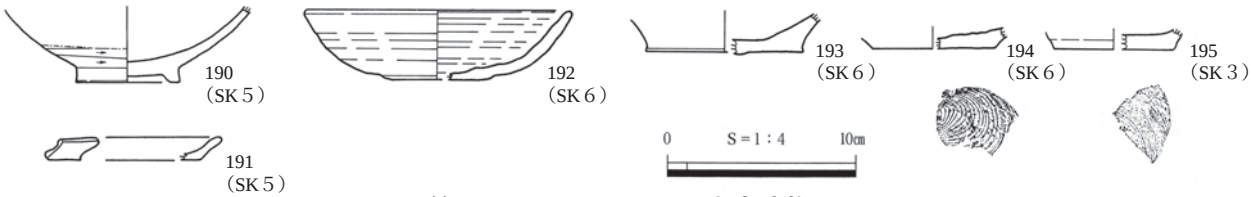
C7グリッドの平坦面に位置する。平面形は長径1.55m、短径1.25mの不整な楕円形を呈する。断面は逆台形で、検出面からの深さは25㎝である。埋土は暗灰褐色土を主体とし、底面中央には灰色砂土が堆積する。砂土の上層からは人頭大の礫に加え、底部回転糸切の土師器皿191や白磁底部190が出土した。190は森田分類Ⅳ類に相当する。出土遺物から時期は12世紀以降と考えられるが、遺構の性格は不明である。（西川）

SK６（第57・58図、PL.18・38）

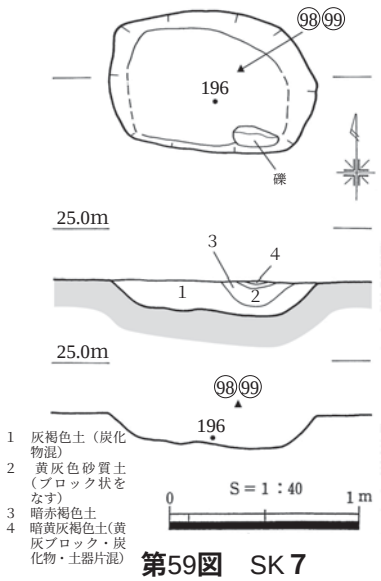
D7グリッド北西の平坦面に位置する。平面形は直径1.1mの円形を呈する。断面は逆台形で、底面はやや曲面をなす。検出面からの深さは35㎝である。埋土は４層に分けられるが、１、２層は抜き取り穴、あるいは後世の掘り込みの可能性がある。出土遺物はいずれも３、４層からの出土である。時期は12世紀以降（八峠中世Ⅱ～Ⅲ期）と考えられるが、遺構の性格は不明である。（西川）



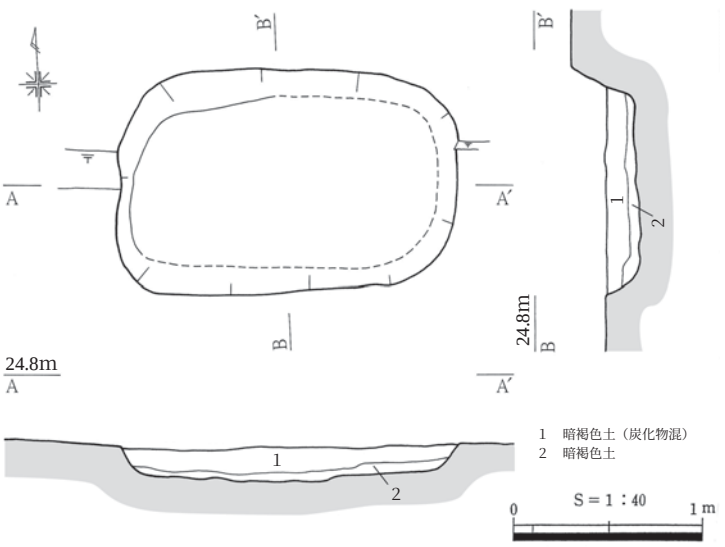
第57図　SK６



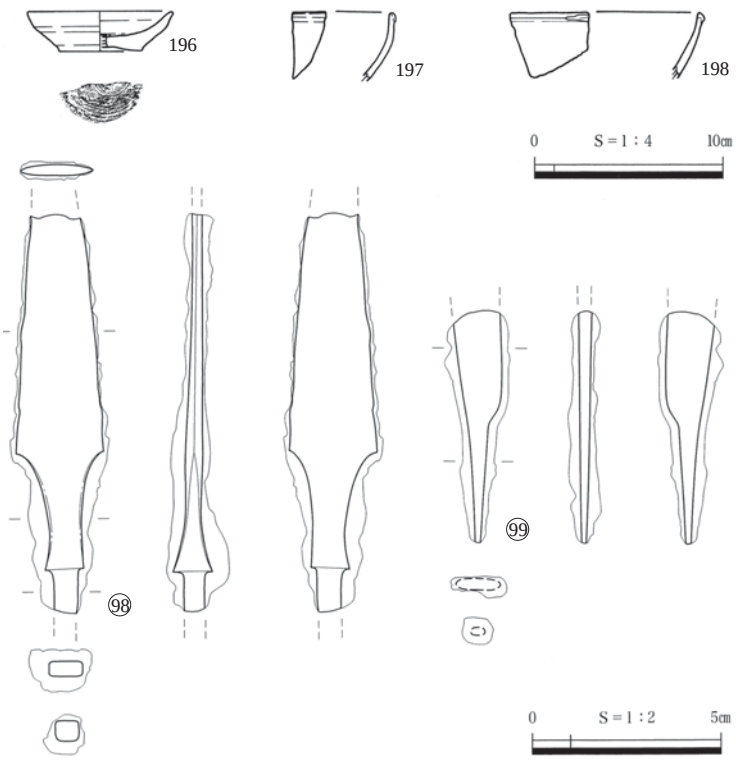
第58図　SK３・５・６出土遺物



第59図　SK７



第61図　SK８



第60図　SK７出土遺物

SK７（第59・60図、PL.19・38・42・46）

D7グリッド北西の平坦面に位置する。平面形は長辺1.1m、短辺75㎝の不整な長方形を呈する。断面は逆台形で、検出面からの深さは35㎝である。埋土は４層にわかれ、２層には黄色土が、３層には炭化物が、４層には焼土粒がそれぞれ多く含まれていた。

検出面でもある２層の上面で鉄製品㊽、㊾が出土した。刃部の破断面どうしが接した状態で出土したが、接合せず別個体である。その他の遺物として、底部回転糸切の土師器皿196や白磁197、198が出土している。前者は八峠中世Ⅱ期以降に相当することから、埋没時期は12世紀以降と考えられるが、遺構の性格は不明である。　（西川）

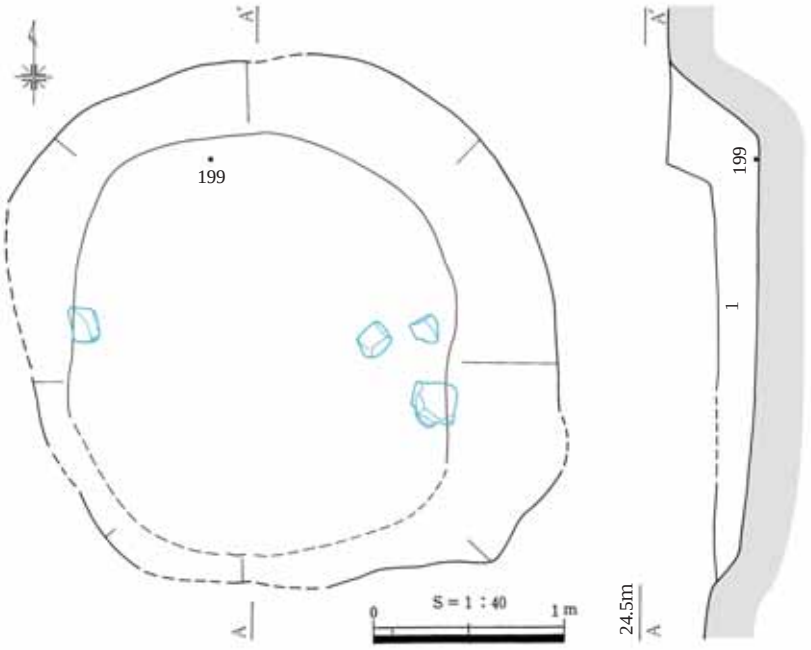
SK８（第61図、PL.19）

B6グリッドの中央西寄りの平坦面に位置する。平面形は長辺1.8m、短辺1.2mの隅丸長方形を呈する。南半は後世の撹乱によって削平されている。断面は逆台形で、深さは35㎝である。埋土は２層にわかれ、ほぼ水平に堆積する。墓壙と考えられるSK２と形態や規模は類似するが、出土遺物はごくわずかな土師器片のみで、明確な時期や遺構の性格を示すものはない。　（西川）

SK９（第62・63図、PL.19・37）

D10グリッドに位置し、東縁がSD９を切る。付近に堆積した鉄分沈着層（Ⅱ－５層）上面より掘り込まれた土坑である。平面形はややいびつな円形を呈し、長軸約3.2m、短軸約2.9mである。検出面

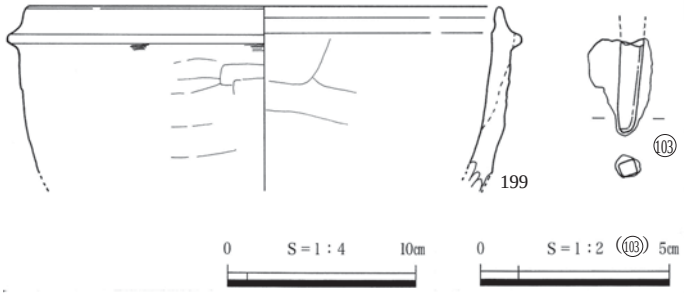
からの深さは最大で約50㎝であり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋土は暗灰褐色土で、均質な土質である。埋土中からは、土器片、鉄製品数点が出土した。その他に、割れた拳大～人頭大の礫が数点検出された。遺物の特徴から、遺構の埋没時期は13世紀以降と考えられる。遺構の性格は不明である。　（君嶋）



第62図　SK９

SK10（第64・65・66図、PL.19・36・37・38）

C6グリッド北東の平坦面に位置する。平面形は長辺2.5m、短辺2.2mの不整な台形を呈する。断面は皿状を呈し、検出面からの深さは20㎝である。埋土は３層にわかれ、灰を多く含む２層が土坑の東半に広がる。

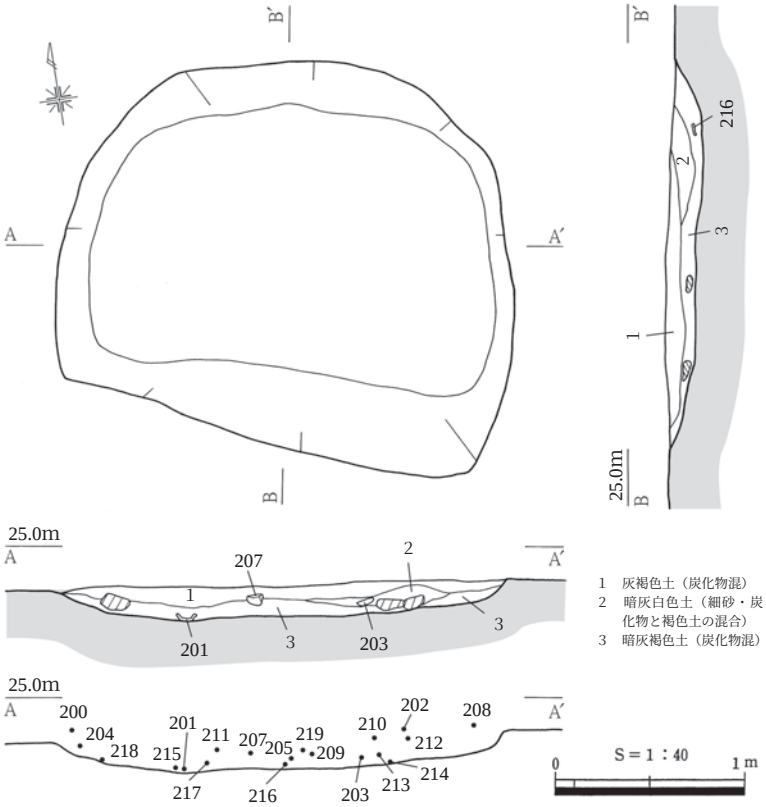


第63図　SK９出土遺物

土坑内からは土師器と礫がまとまって出土した。いずれも土坑全体に散在しており、その大半が埋土中に遊離していた。底面から出土した土師器には201と214がある。礫では扁平な形状のものを数点確認した。底面に残る礫から判断して、礫を用いて土坑内を方形または長方形に囲んでいた可能性も考えられるが、土層断面観察では底面に位置する礫の内側と外側の埋土に、礫据付け時の裏込め土と埋没土に相当する明確な違いは認められなかった。

出土した土師器には皿・坏・甕あるいは鍋がある。なかでも口径９㎝前後、底径４～4.5㎝の小皿が大半を占める。

皿や坏の底部の破片には人為的な打ち欠き痕跡をとどめるものがある



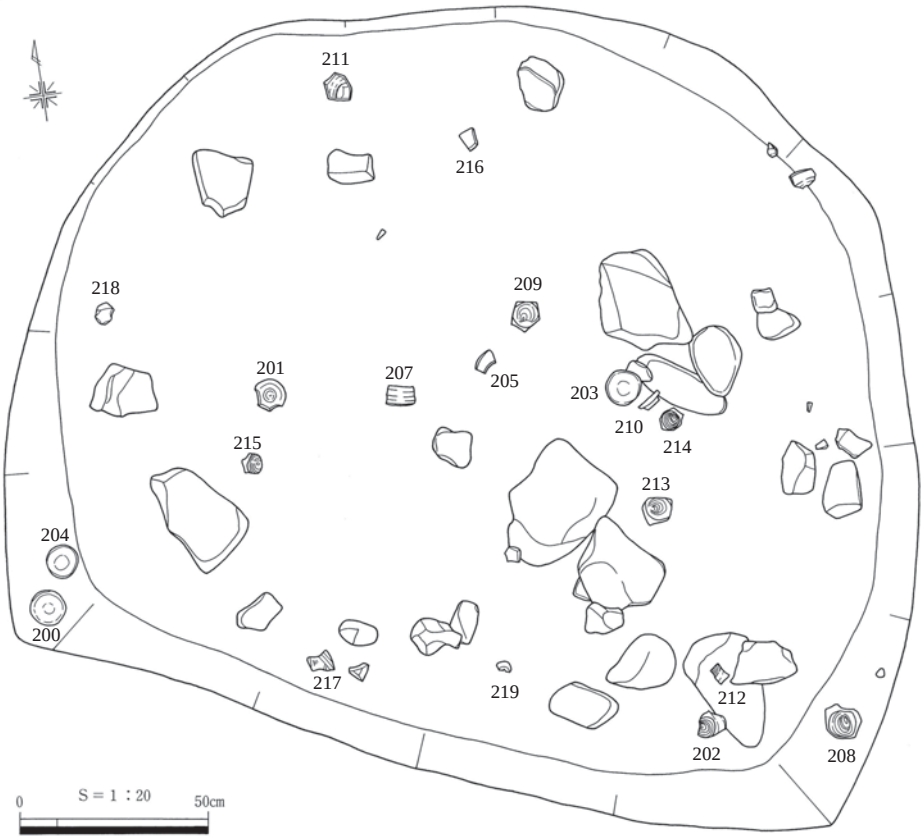
第64図　SK10

（211、212、213）。その他、赤色ではないが、橙色を基調とした化粧土を内外面に塗彩するものがある（202、205、206、210、214）。

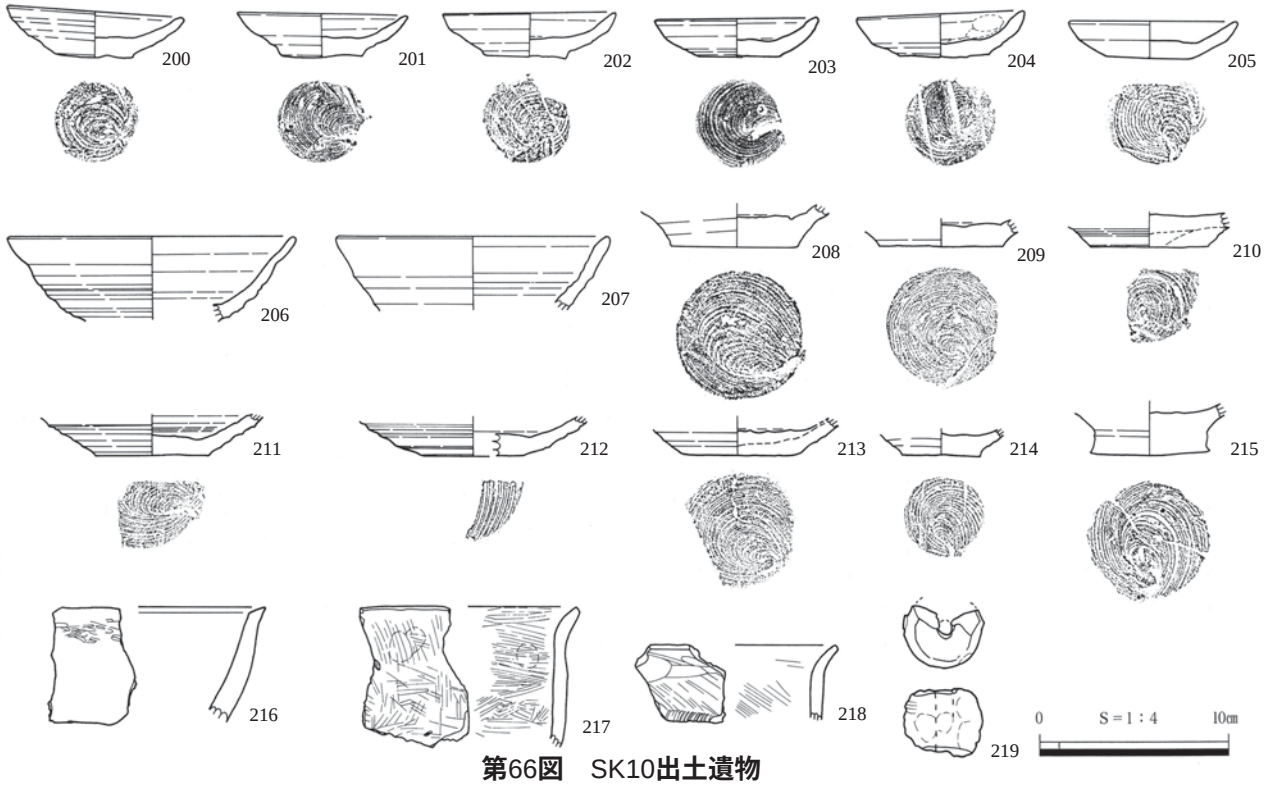
これだけで判断することは難しいが、SK10の出土遺物は何らかの祭祀に使用されたものである可能性が考えられる。出土した土師器は八峠中世Ⅱ期に位置づけられ、時期は12世紀以降であると考えられる。　（西川）

SK11（第67・69図、PL.19・37・38）

C5グリッドに位置する。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸約1.8m、短軸約1.3mである。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは最大で43㎝である。底面は、北西側に高まりがあるがそれ以外はおおむね平坦である。埋土は３層に分層され、レンズ状に堆積した２層には砂が多量に混じる。遺



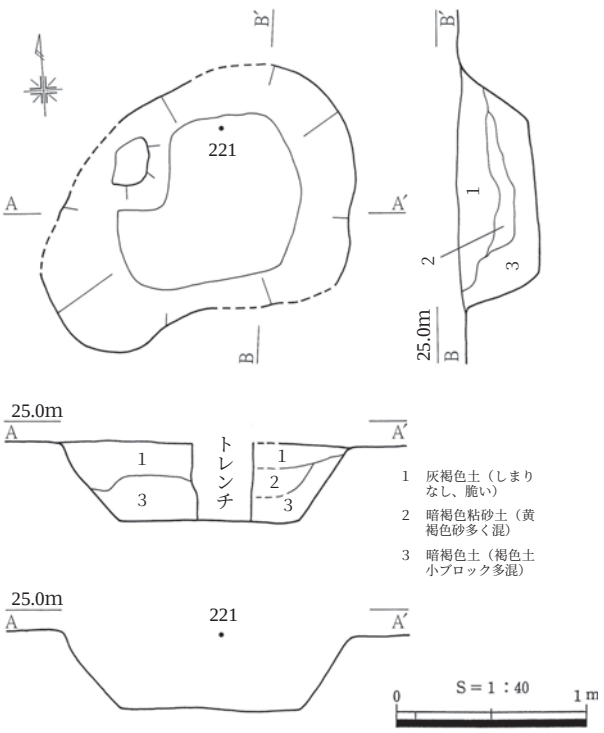
第65図　SK10遺物出土状況図



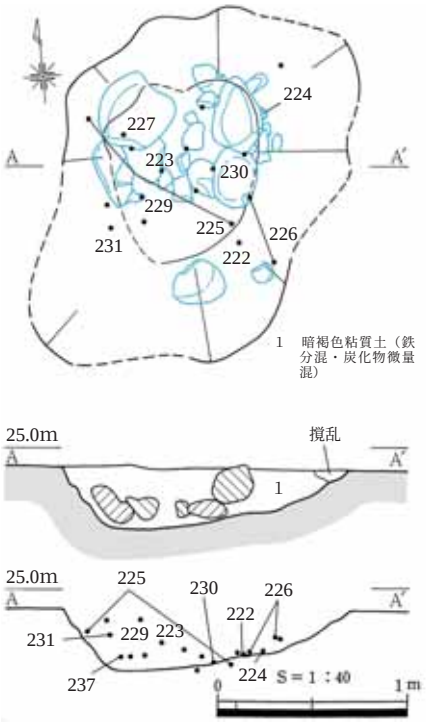
第66図　SK10出土遺物

物は、埋土中から土器片十数点が出土した。遺物の特徴から、埋没時期は12世紀以降と考えられる。遺構の性格は不明である。（君嶋）

SK12（第68・69図、写真５・６、PL.20・36・37・38）

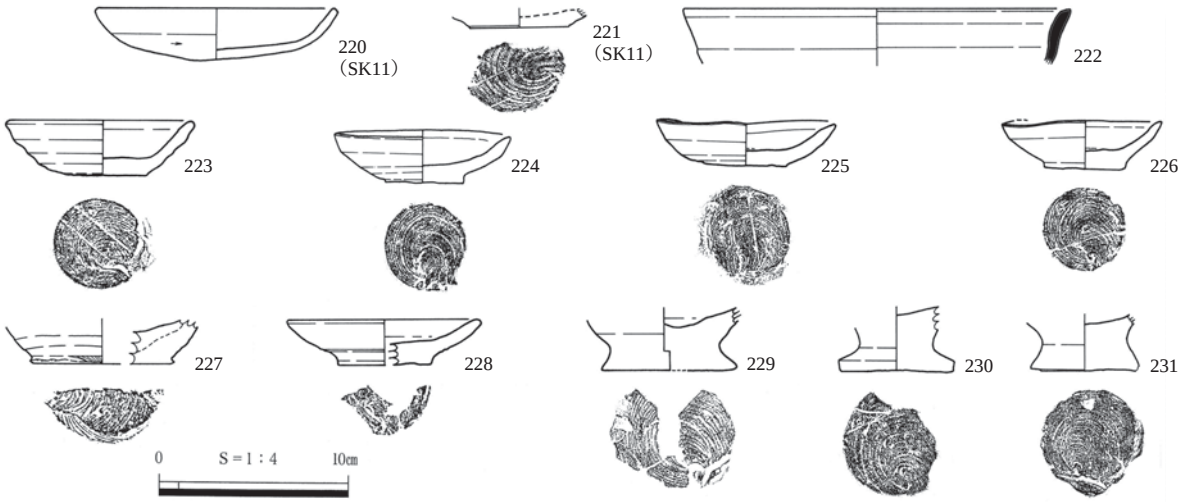


第67図　SK11

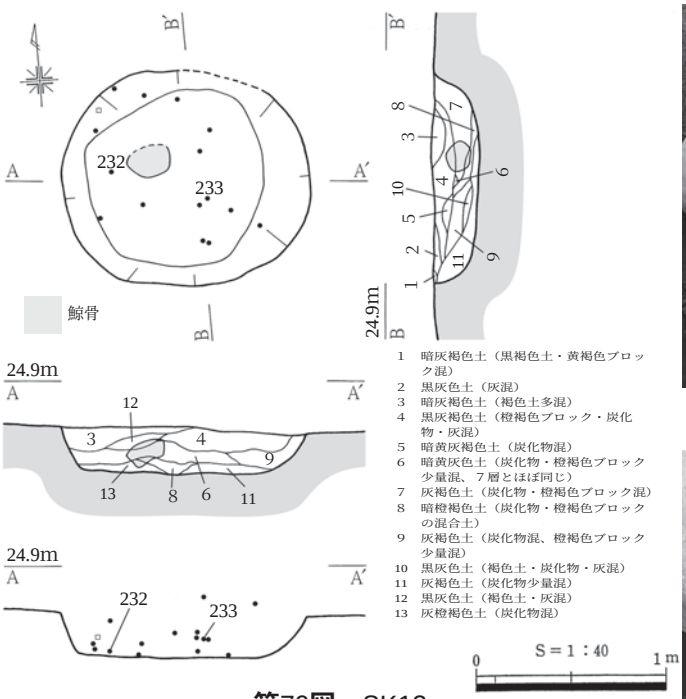


第68図　SK12

C４グリッドに位置し、弥生時代の土坑SK23を切る。平面形は、北東－南西方向に主軸をとる不整な楕円形を呈し、長軸約2.2m、短軸約1.5mである。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは最大で約35㎝である。埋土は暗褐色の粘質土１層で、わずかに炭化物が混じる。埋土中からは、土器片十数点の他に、拳大～人頭大の礫が多数検出された。これらの礫の多くは坑底から浮いた状態であり、一見投棄された状況であるが、底面北東寄りの特に大振りの１石の下から、土師器皿224が完形で出土した。この石は長軸の南側の一端は別の石に乗り、北端は２個の小礫をかまされた状態であったため、石と坑底との間に空間が生じていた。224はこの空間に正置された状態であった。このことから、大形の礫については意図的に配置されたものであり、原位置をとどめている可能性が高いと考えられる。これらの礫の性格は明らかにできないが、大形の礫を基壇とする石組み状の施設などが想定される。出土した土器は土師器小皿、柱状高台皿が多く、１点のみ須恵器が含まれる（222）。これらの遺物の特徴は八峠中世Ⅱ期に相当することから、遺構の時期は12世紀頃と考えられる。（君嶋）



第69図　SK11・12**出土遺物**

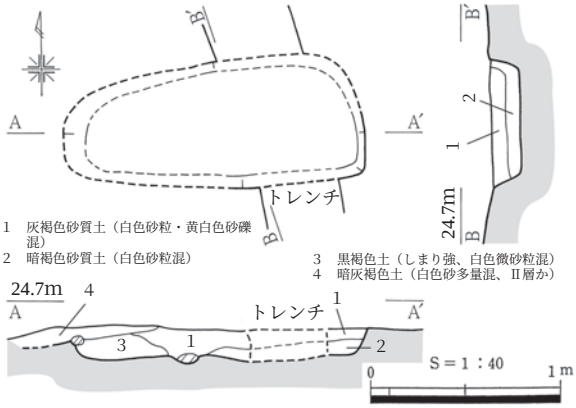


第70図　SK13

写真５　SK12土器出土状況（１）

写真６　SK12土器（224）出土状況（２）

写真７　SK13鯨骨出土状況



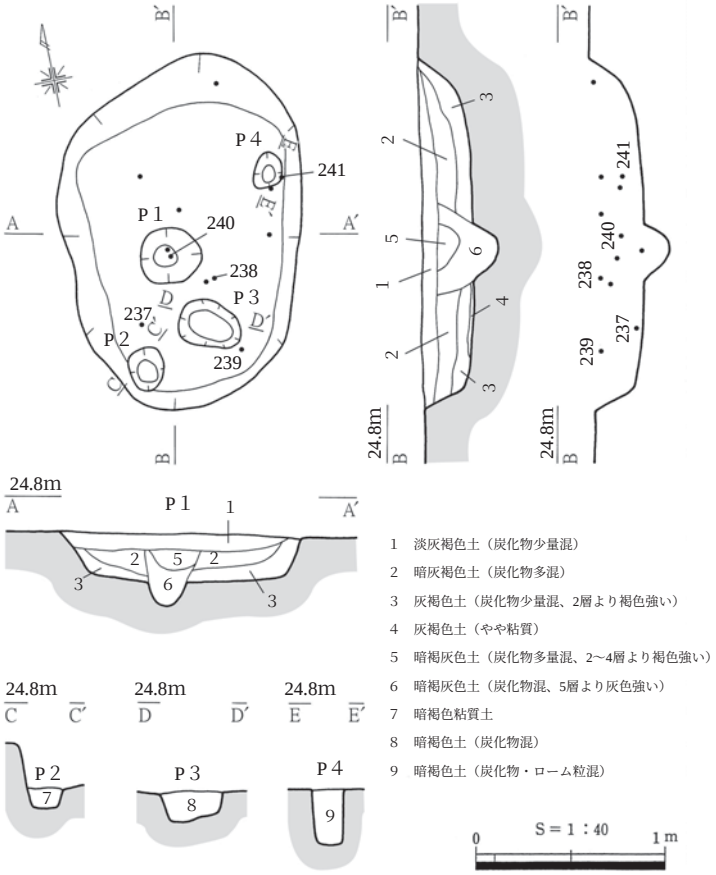
第71図　SK14

SK13（第70・72図、写真７、PL.20・37・38）

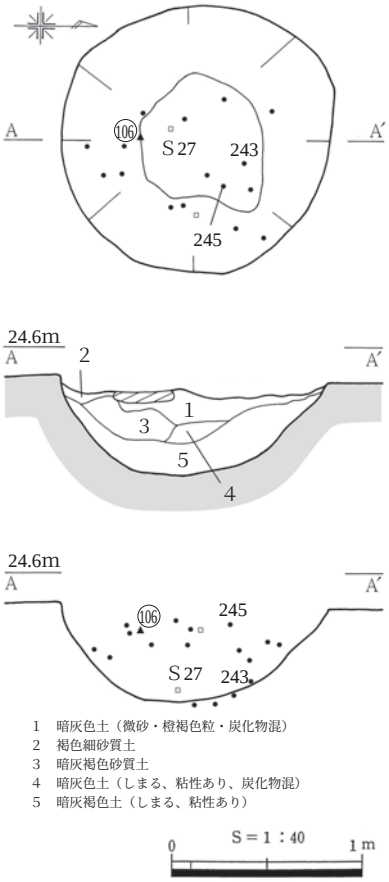
C7グリッド西端の平坦面に位置する。平面形は長径1.3m、短径1.15mの楕円形を呈する。検出面からの深さは35㎝である。埋土には灰や炭化物、橙褐色の焼土粒が多く含まれており、人為的に埋められた廃棄土坑と考えられる。埋土中からは、土師器皿233や中世須恵器壺232、青白磁合子身234などが出土した。中世須恵器については、蛍光Ｘ線分析の結果、勝間田焼が示す成分範囲の中に収まることが判明した（第４章第２節参照）。

その他に獣骨が出土し、井上貴央氏の鑑定により鯨骨との結果を得た。遺存状態はあまり良好ではない。大きさ20×16㎝、厚さは約15㎝である。灰白色から浅黄橙色を呈し、表面には直径２～３㎜程度の

第72図　SK13・14出土遺物



第73図　SK15



第74図　SK18

気泡状の小孔があらわれる。遺存した骨の大きさから、少なくとも小型の鯨類（イルカ等）でないことが窺えるが、より細かな分類や骨の部位は不明である。

出土土器から判断する限り、時期は13世紀以降に位置づけられるが、鯨骨のAMS年代測定では17世紀前後という結果を得ている（第４章第１節参照）。（西川）

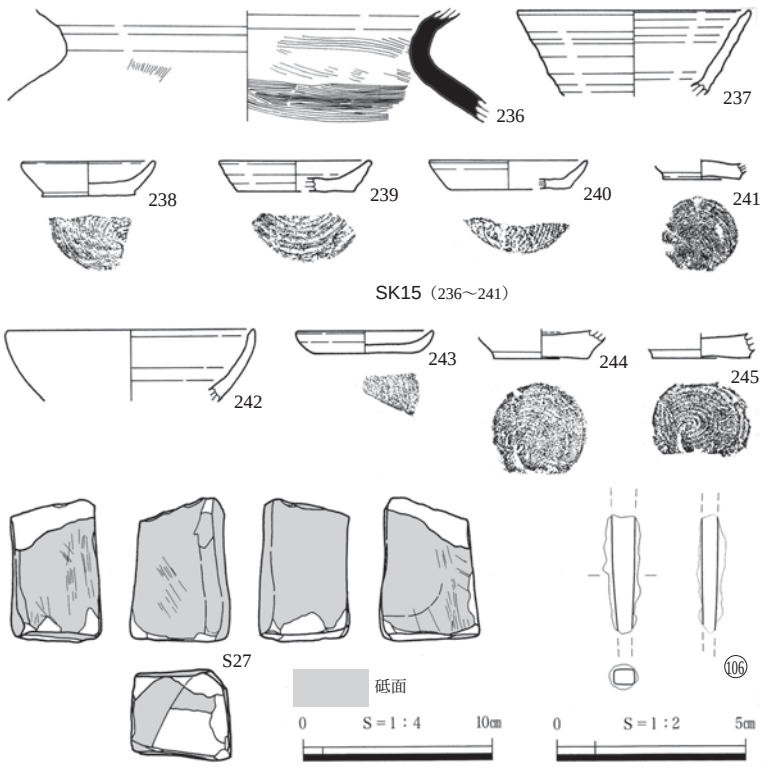
SK14（第71・72図、PL.20・38）

B5グリッドに位置し、SD２の埋土中に掘り込まれている。土坑の埋土と地山（SD２埋土）との識別が困難であったため、全体の形状はサブトレンチの土層断面から復元したものである。平面形は長軸を東西方向にとる長方形で、長軸約1.6m、短軸約67㎝である。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは約20㎝である。埋土は、SD２の埋土に似通った砂質土１、２層を主体とし、水平に堆積している。遺構外へ広がる４層は、基本層序のⅡ層に包括される包含層である。埋土中からは土器片十数点が出土した。底部回転糸切の土師器が含まれることから、遺構の埋没時期は平安時代と考えられる。墓壙であるSK２に近接し、主軸を直交させる他は平面形や埋土の状況などがSK２と類似するが、墓壙である確証はない。（君嶋）

SK15（第73・75図、PL.20・37・38）

C8グリッド北側の平坦面に位置する。平面形は長径2.0m、短径1.3mの不整な長楕円形を呈する。断面は逆台形を呈し、検出面からの深さは最深部で40㎝である。断面観察から、長楕円の土坑が埋没した後でP1が掘削され、さらにその上面が削平を受けた後に別の堆積土で埋まった状況が窺える。P2～P4は長楕円土坑に伴うものである。

出土遺物のうち、土師器皿238～240は八峠中世Ⅱ～Ⅲ期に相当すると思われる。須恵器236はP2か



第75図　SK15・18**出土遺物**

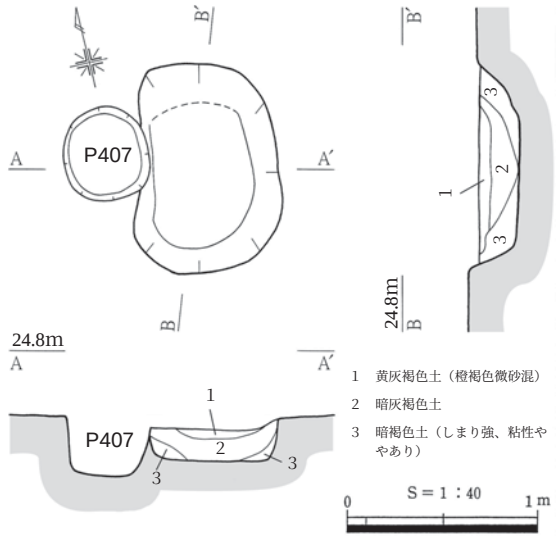
ら出土した。胎土分析を行ったSK13の資料と酷似しており、同じく勝間田焼であろう。SK15の時期は12世紀以降と考えられるが、遺構の性格は不明である。P1からは良好な遺物が出土しなかったため、SK15とP1の明確な時期差は不明である。（西川）

SK18（第74・75図、PL.21・38・44・45）

B8グリッド北東側の平坦面に位置する。平面形は直径1.4mの円形を呈する。検出面からの深さは最深部で50㎝である。埋土は５層にわかれ、上層には砂が多く含まれる。１、２層中には厚さ６㎝の扁平な石が水平に据えられている。

出土遺物のうち、土師器244、245、釘106が上層、土師器242、243、砥石S27が下層から出土した。両者に明確な時期差は認められない。土師器はいずれも八峠中世Ⅱ～Ⅲ期に相当するものと思われる。

SB１の項でも記したが、SK18の上層（１～４層）と下層（５層）をそれぞれ別の遺構であると解釈すれば、上層はSB１に伴うピットと理解することもできる。（西川）



第76図　SK19

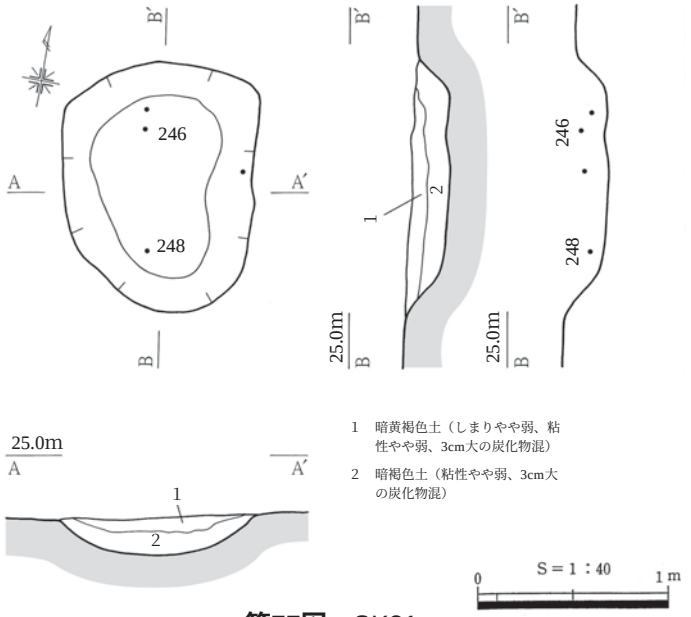
SK19（第76図、PL.21）

B7グリッド東端の平坦面に位置する。平面形は長辺1.1m、短辺70㎝の不整な隅丸長方形である。断面は逆台形を呈し、検出面からの深さは25㎝である。埋土は３層に分かれる。墓壙であるSK２に比べ小規模であるが、形態は類似する。出土遺物はごくわずかな土師器片のみで、明確な時期や遺構の性格を示すものはない。（西川）

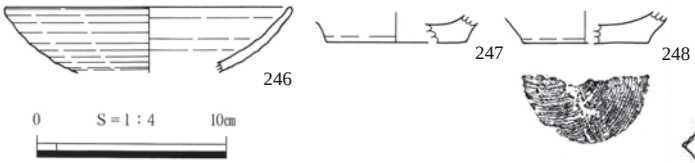
SK21（第77・78図、PL.21・38）

C7グリッド南寄りに位置する。平面形は長軸約1.3m、短軸約１mの不整な楕円形を呈する。検出面からの深さは最大で約20㎝であり、断面形は浅い皿状である。底面は長軸約95㎝、短軸約55㎝の不整な楕円形を呈する。埋土は暗黄褐色土、暗褐色土に分かれ、いずれの層にも炭化物が混じる。

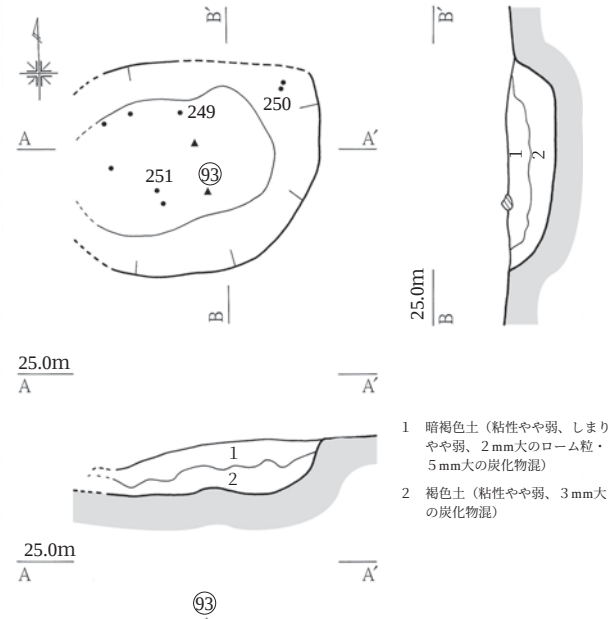
遺物は埋土中から土器片が数点出土した。土師器皿247、248は底部回転糸切である。土器の特徴は八峠中世Ⅱ～Ⅲ期に相当することから、埋没時期は12世紀以降と考えられる。土坑の性格については不明である。（山根）



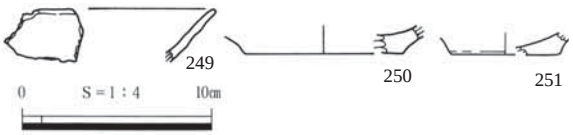
第77図　SK21



第78図　SK21出土遺物



第79図　SK22



第80図　SK22出土遺物

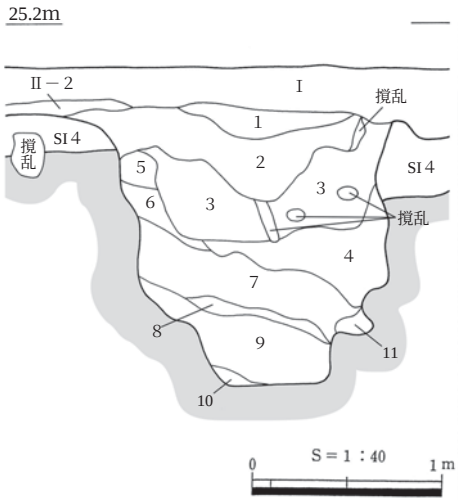
SK22（第79・80図、PL.21・38）

C8グリッドのほぼ中央に位置する。西側は後世の撹乱により破壊されている。平面形は長軸約1.2m、短軸約1.1mの不整な楕円形を呈する。検出面からの深さは最大で約25㎝を測り、断面形は皿状である。底面は長軸約90㎝、短軸65㎝の不整な楕円形を呈する。埋土は暗褐色土、褐色土に分かれ、いずれの層にも炭化物が混じる。

遺物は埋土中から土器片、鉄滓が出土した。土器の特徴から埋没時期は平安時代と考えられる。土坑の性格については不明である。（山根）

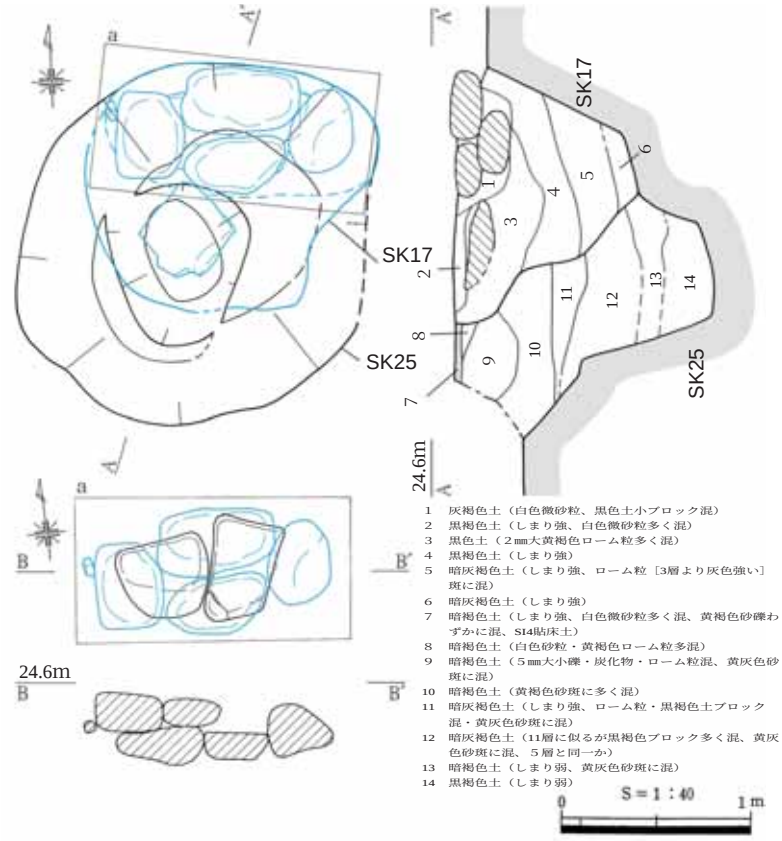
SK24（第81図、PL.21）

B4・B5グリッドの調査区北壁際に位置する。試掘坑の壁面で断面のみを確認した土坑である。SI４の床面を破壊して掘り込んでおり、掘り込み面での幅は東西1.75mである。断面形は底面付近が強くくびれたU字形を呈し、掘り込み面からの深さは1.45mである。埋土は11層に分層される。４層以下は、西側から東側へ傾斜して堆積している。１～３層は、４層以下の堆積後に掘り込まれた別遺構の埋土である可能性もある。３層は黄褐色の砂礫が多量に混じる黒褐色土であり、SI４の埋土と類似している。遺物は、壁面精査の過程で須恵器を含む土器片数点を回収したが、いずれも小片であり図化に耐えない。仮に１～３層、４層以下を別の遺構と解釈する場合でも、両者とも平安時代の遺構であるSI４に後出することは土層断面から明らかである。土坑



1　暗褐色土（灰褐色ブロック・黄褐色砂礫混）
2　暗褐色土（5cm大礫まばらに混、黄褐色砂礫多混）
3　黒褐色土（しまり弱、黄褐色砂礫多混、炭化物混）
4　暗褐色土（しまり弱、黄褐色砂礫・黄褐色砂混、黒褐色ブロック混）
5　暗褐色土（しまりやや弱、緻密、黄褐色砂礫・炭化物微量混）
6　黒褐色土（黄褐色砂礫やや多混）
7　暗褐色土（黒褐色ブロック・黄褐色砂斑に混）
8　暗褐色土（黄褐色砂礫多混、黒褐色ブロック混
9　暗褐色土（しまり弱、脆い、黒褐色土との混合土、黄褐色砂礫少量混、灰褐色砂斑に混）
10　黒褐色土（しまり弱、黄灰色砂［地山］ブロック混）
11　暗灰褐色土

第81図　SK24



第82図　SK17・25

の性格は不明である。　　（君嶋）

SK17・25（第82図、写真８・９、PL.21）

B5グリッドに位置する。SI４と重複する２基の土坑である。構築順序は、SK25→SI４（SK25の埋土上面に貼床構築）→SK17となる。SK17はさらに（古）（新）に分けられる。

SK25はSI４の貼床除去後に検出した土坑である。平面形は北東－南西方向に主軸をとる楕円形を呈し、長軸約2.15m、短軸約1.8mである。断面形は、北側はSK17に破壊されているが、逆台形を呈するものと想定され、南側では中位に段をもつ。検出面からの深さは最大で1.3mである。埋土は暗褐色土を主体とし最下層（14層）は黒褐色土となる。ほぼ水平に堆積しており埋め戻しを示唆する。

SK17（古）はSI４の床面を破壊して掘り込まれた土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸1.3mである。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは約95㎝である。埋土は、上層（２～４層）は黒褐色土、下層（５、６層）は暗灰褐色土を主体とする。３層は黄褐色のローム土粒子を多く含み、SI４、SK24の埋土に似る。また、３層中には人頭大の扁平な角礫１石が含まれる。

SK17（古）の埋没後、土坑の北寄りにさらに新たな土坑（SK17（新））が掘り込まれる。この土坑は東西に主軸をとる長方形を呈し、長軸1.45m、短軸70㎝、深さ30㎝である。この土坑をほぼ充填する形で、扁平な礫５石と円礫１石とが上下２面に並べられる。

SK17（新）の礫については、検出当初は石蓋土壙墓の可能性を想起したが、下層に墓壙を伴わないことが判明した。その性格については不明である。遺物は、SK17（古）、SK25の埋土中から土器片数点が出土した。いずれも小片で図化に耐えないが、両土坑とも底部回転糸切の土師器片を含んでいる。したがって、SK25→SI４→SK17（古）までの変遷は、10世紀以降、中世までの時間幅で継起したものと理解される。ただし、SK17（新）の時期は不明である。　　（君嶋）

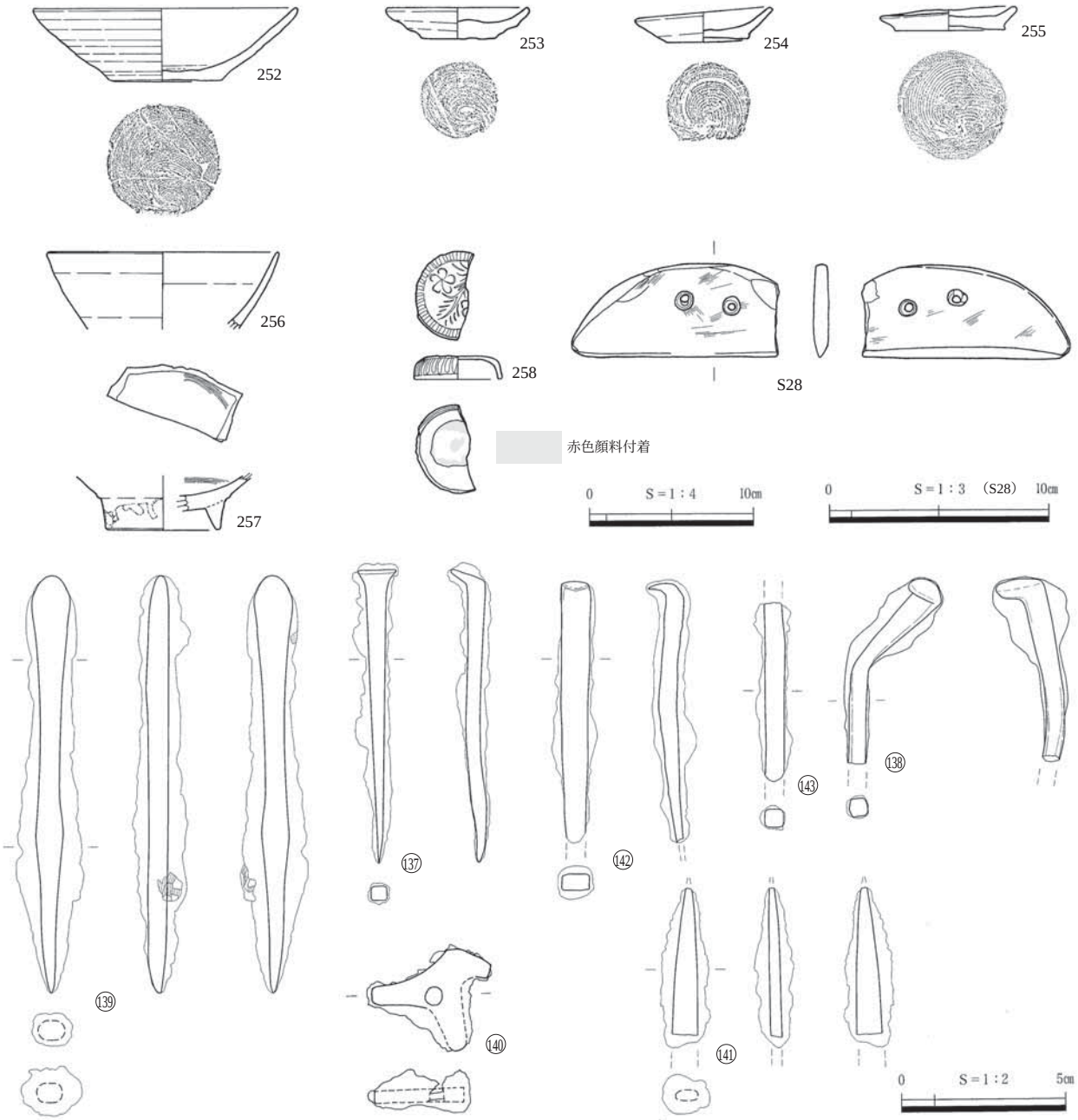
写真８
SK17**（新）**
礫検出状況

写真９
SK17**（古）**
礫検出状況

第６節　ピット群（第83・84・85図、第８表、PL.37・39・42・44）

総数482基のピットが検出された。B7・B8・C7・C8グリッドに特に集中して分布している。ピットの埋土は暗灰褐色土、暗黄褐色土、褐色土が主体で、ほとんどが単層である。B5～D5グリッドに分布するピットには砂が、B7・B8・C7・C8グリッドに分布するピットには炭化物、（明）橙褐色ブロック（粒）が混じるものが多く存在する。柱痕跡が認められたものはP110・P145・P147・P148・P161・P162・P208・P296・P424の計９基であるが、ほとんどが単独で存在し、規則的に並ばないことから、建物や柵列を構成する可能性は低いと考えられる。ただし、P161については南側に位置するSB２柱列の延長線上に並ぶことから、SB２と関連する柱穴の可能性がある。

254基のピットから遺物が出土した。そのほとんどが小片の土器であったが、遺存度が高く、各時期の特徴を示すものを選んで図示した。時期としては中世の遺物が多いが、P258からは弥生時代のものと考えられる磨製石庖丁S28が出土している。（山根）



第83図　ピット出土遺物

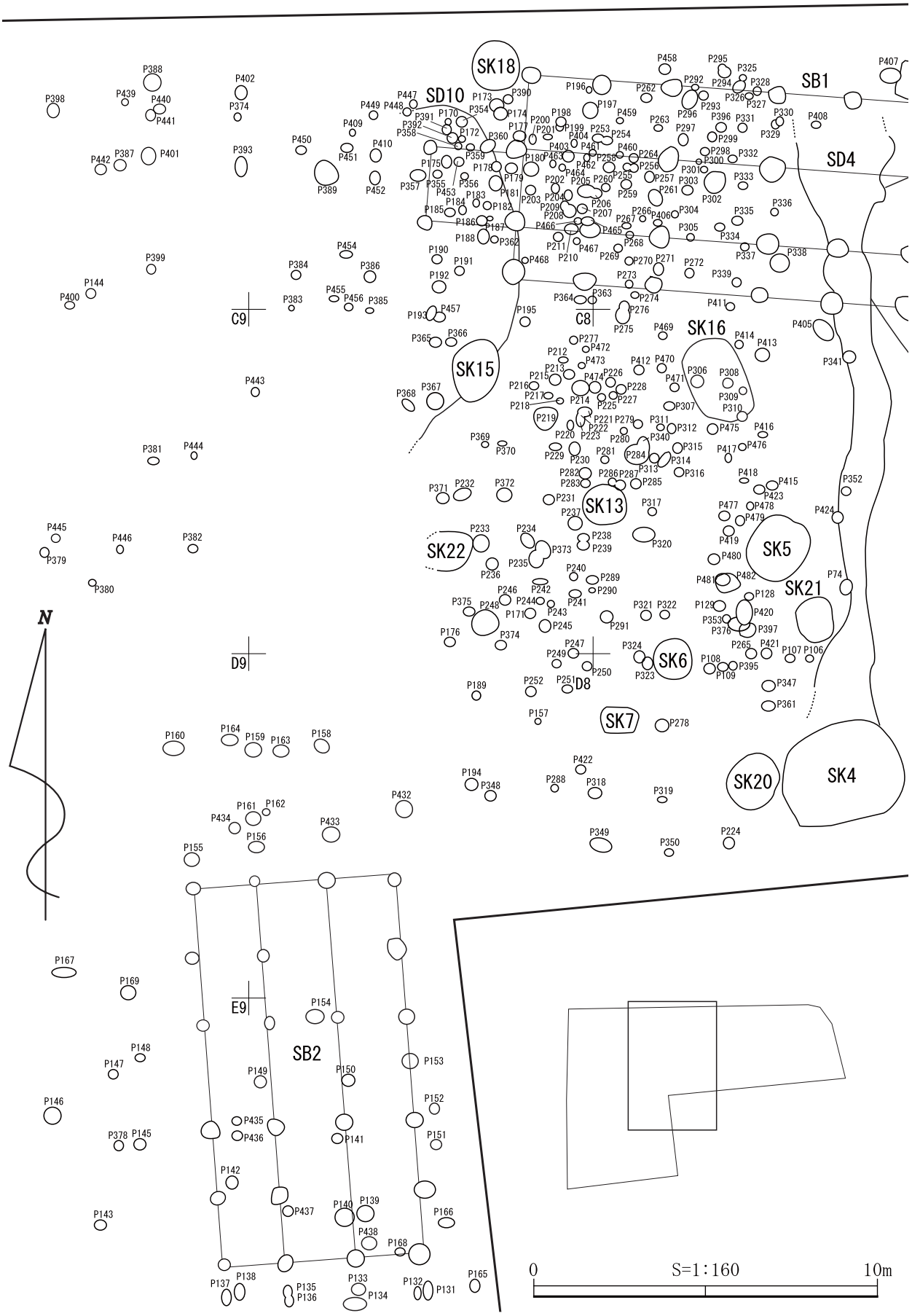
第８表　ピット計測表

№	地区	長径cm	短径cm	深さcm	土　色	遺物	備　考
P1	D5	49	26	24	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P2	D5	33	27	22	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P3	D5	27	23	35	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P4	D5	28	23	18	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P5	D5	19	17	20	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P6	D5	34	32	37	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P7	D5	23	16	22	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P8	D5	31	26	39	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P9	D5	32	29	43	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P10	D5	16	15	16	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P11	C5	36	32	30	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P12	C5	29	27	30	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P13	C5	30	24	21	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P14	C5	27	20	38	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P15	C5	14	14	14	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P16	C5	48	48	15	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P17	C5	32	26	22	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P18	C5	17	15	10	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P19	C5	25	24	19	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P20	C5	49	30	29	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P21	C5	96	52	31	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P22	B5	22	21	21	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P23	B5	31	30	14	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P24	B5	44	41	45	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P25	B5	33	28	17	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P26	B5	32	31	43	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P27	B5	80	76	24	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P28	B5	39	34	17	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P29	B5	30	23	21	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P30	D5	26	25	31	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P31	D5	31	30	36	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P32	D5	47	42	36	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P33	D5	21	20	10	暗褐色土 砂混	○	SD2より新しい
P34	C5	84	80	15	暗褐色土	○	SD3より新しい
P35	C5	18	18	52	暗褐色土	×	
P36	C5	42	34	28	暗褐色土 砂混	×	
P37	B5	38	22	24	暗褐色土	×	
P38	B5	38	33	14	暗褐色土	×	
P39	B5	49	34	33	暗褐色土	○	SD3より新しい
P40	B5	23	18	14	暗褐色土	×	
P41	B5	48	44	43	暗褐色土	×	
P42	C3	27	22	49	暗褐色土	×	
P43	C3	36	29	36	暗褐色土	×	
P44	C3	43	36	25	暗褐色土	○	
P45	C3	17	17	23	暗褐色土	×	
P46	C3	44	39	27	暗褐色土	×	
P47	C3	29	28	63	暗褐色土	×	
P48	C3	31	21	16	暗褐色土	×	
P49	C3	29	24	26	暗褐色土	×	
P50	C3	19	17	31	暗褐色土	×	
P51	C3	28	24	18	暗褐色土	○	
P52	C3	27	20	11	暗褐色土	×	
P53	C3	38	26	18	暗褐色土	○	
P54	C3	43	33	83	暗褐色土	○	
P55	C3	37	32	27	暗褐色土	×	
P56	C3	41	39	50	暗褐色土 炭混	○	
P57	C3	27	26	36	暗褐色土	×	
P58	C3	27	25	23	暗褐色土	○	
P59	C3	30	27	13	暗褐色土	×	
P60	C3	36	36	44	暗褐色土	×	
P61	C3	23	22	25	暗褐色土	○	
P62	C3	26	24	37	暗褐色土	×	
P63	C3	33	29	51	暗褐色土	○	
P64	C3	56	48	14	暗褐色土	○	
P65	C3	27	25	18	暗褐色土	×	
P66	C3	30	29	35	暗褐色土	○	
P67	C3	31	15	13	暗褐色土	×	
P68	C3	33	31	57	暗褐色土	×	
P69	C3	68	41	11	暗褐色土	×	
P70	C3	29	25	41	暗褐色土	○	
P71	C3	33	33	44	暗褐色土	○	
P72	C3	31	29	37	暗褐色土	×	
P73	C3	39	38	30	暗褐色土	×	
P74	C7	36	33	37	暗褐色土	×	（旧P510）
P75	C3	20	20	24	暗褐色土	×	
P76	C3	31	26	31	暗褐色土 炭混	○	P97より新しい
P77	C3	34	30	48	暗褐色土	×	
P78	C3	29	23	51	暗褐色土	×	
P79	C4	27	25	25	暗褐色土	○	
P80	C4	35	22	16	暗褐色土	×	
P81	C4	52	45	41	暗褐色土	×	
P82	C4	39	36	22	暗褐色土	○	
P83	C4	29	24	41	暗褐色土	×	
P84	C3	24	23	27	暗褐色土	×	
P85	C3	24	22	34	暗黄褐色土	×	P84より新しい
P86	C4	23	22	34	暗褐色土	○	鉄滓出土
P87	C4	27	25	48	暗黄褐色土 炭混	○	
P88	C4	34	29	46	暗褐色土	○	
P89	C4	28	23	44	暗褐色土	○	P88より新しい
P90	C4	38	35	33	暗褐色土	○	
P91	C4	35	35	41	暗褐色土	○	P92より新しい
P92	C4	30	28	30	暗褐色土 炭混	○	鉄釘出土
P93	C4	28	20	44	暗褐色土 炭混	×	
P94	C4	21	18	38	暗褐色土	×	
P95	C4	21	19	20	暗褐色土	×	
P96	C4	36	33	38	暗褐色土	×	
P97	C3	29	26	23	暗褐色土	×	
P98	C4	25	24	24	暗褐色土	○	
P99	C4	43	28	46	暗褐色土 炭混	○	
P100	D3	53	40	29	暗褐色土	○	
P101	D3	67	48	23	暗褐色土 砂混	○	
P102	D3	78	43	25	暗褐色土	×	P101より新しい
P103	D3	32	24	27	暗褐色土	×	
P104	D4	42	37	31	暗褐色土	○	赤碕T3内
P105	D4	23	22	20	暗褐色土	×	赤碕T3内
P106	D7	18	18	24	褐色土 炭混	×	（旧P488）
P107	D7	18	16	13	暗褐色土	×	（旧P489）
P108	D7	24	22	13	褐色土	×	（旧P490）
P109	D7	33	28	20	褐色土	×	（旧P491）
P110	C5	53	50	40	-	○	SD2より新しい
P111	C5	50	42	45	-	○	SD2より新しい
P112	D5	33	30	45	暗褐色土 砂混	×	SD2より新しい
P113	C5	90	75	30	暗褐色土	○	
P114	B6	34	―	47	暗褐色土 細砂混	○	
P115	B6	45	36	15	暗褐色土	○	
P116	B6	48	38	25	暗灰褐色土	○	
P117	B6	39	35	18	暗灰褐色土 砂混	○	
P118	B6	20	-	15	暗褐色土	×	
P119	B6	18	-	8	暗黄褐色土	×	
P120	B6	50	40	25	暗褐色土	○	
P121	B6	25	-	32	暗褐色土	×	
P122	B6	35	35	33	-	○	
P123	B6	45	44	22	暗褐色土	×	
P124	B6	24	22	24	暗灰褐色土	×	
P125	B6	21	18	20	暗褐色土	×	
P126	B6	30	25	13	暗褐色土	×	
P127	B6	60	-	7	灰褐色土粘質土	○	
P128	C7	19	18	18	褐色土	×	（旧P483）
P129	C7	40	36	32	暗褐色土 炭混	×	（旧P484）
P130	B6	57	60	9	灰褐色土	○	橙褐色ブロック・炭化物多く混 方形ピット
P131	E8	40	28	25	暗黄灰褐色土	○	P132より新しい
P132	E8	30	25	20	暗灰褐色土	×	P131より古い
P133	E8	40	30	30	暗黄灰褐色土	○	P134より新しい
P134	E8	45	30	28	暗灰褐色土	×	P133より古い
P135	E8	40	26	27	暗黄灰褐色土	×	P136より新しい
P136	E8	33	30	30	暗褐色土	○	P135より古い
P137	E9	35	30	30	暗黄灰褐色土	○	
P138	E9	45	30	20	暗黄灰褐色土/暗灰色土	○	撹乱か
P139	E8	50	40	20	暗黄灰褐色土	○	
P140	E8	46	40	20	暗黄灰褐色土	○	
P141	E8	25	25	10	暗黄灰褐色土	×	
P142	E9	25	25	14	暗黄灰褐色土	○	
P143	E9	30	25	15	暗黄灰褐色土	×	
P144	B9	34	30	21	暗灰褐色土	×	（旧P508）
P145	E9	30	30	40	-	○	柱痕
P146	E9	40	40	20	暗黄灰褐色土	○	
P147	E9	33	25	28	-	×	柱痕
P148	E9	25	25	35	-	○	柱痕
P149	E8	30	30	17	暗灰褐色土	×	
P150	E8	29	27	10	暗灰褐色土	×	
P151	E8	30	23	6	暗黄灰褐色土	×	
P152	E8	33	30	8	暗黄灰褐色土	×	
P153	E8	30	27	10	暗黄灰褐色土	×	
P154	E8	35	28	7	暗黄灰褐色土	○	
P155	D9	35	28	12	暗灰褐色土	×	
P156	D8	42	38	9	暗灰褐色土	×	礎盤石か
P157	D8	23	22	14	暗褐色土	×	（旧P509）
P158	D8	42	40	3	暗灰褐色土	×	
P159	D8	28	28	36	暗灰褐色土	○	柱穴か
P160	D9	42	37	6	暗褐色土	○	
P161	D8	35	33	26	-	×	柱痕
P162	D8	30	28	13	-	○	柱痕
P163	D8	32	31	2	暗褐色土	×	
P164	D9	42	42	16	暗褐色土	○	
P165	E8	38	27	15	暗黄灰褐色土	×	
P166	E8	40	30	15	暗黄灰褐色土	×	
P167	D9	35	35	28	暗黄灰褐色土	×	
P168	E8	22	22	5	暗黄灰褐色土	○	
P169	D9	25	28	10	暗褐色土	×	
P170	B8	30	30	20	暗褐色土 礫混	○	
P171	C8	27	25	26	暗褐色土	×	（旧P495）
P172	B8	22	22	23	暗灰褐色土 炭混	○	
P173	B8	40	35	18	暗褐色土 黄橙色ブロック	×	P174より古い
P174	B8	35	35	30	暗灰褐色土 炭少量混	×	P173より新しい
P175	B8	37	27	16	暗灰褐色土 黄橙色ブロック・炭混	×	
P176	C8	25	22	15	褐色土 炭混	×	（旧P496）
P177	B8	35	35	33	暗灰褐色土 炭混	○	
P178	B8	25	23	31	暗褐色土 明褐色ブロック・炭混	○	鉄滓出土
P179	B8	35	30	10	暗灰褐色土	○	
P180	B8	48	37	15	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P181	B8	45	40	25	暗灰褐色土	○	柱穴か
P182	B8	22	22	35	暗黄灰褐色土 橙褐色ブロック・炭多量混	○	
P183	B8	17	17	10	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭少量混	×	
P184	B8	27	25	17	暗灰褐色土	×	
P185	B8	27	25	15	暗黄灰褐色土	○	
P186	B8	29	29	26	暗褐色土	×	撹乱著しい
P187	B8	17	17	18	暗黄灰褐色土	○	
P188	B8	30	30	22	暗黄灰褐色土	×	
P189	D8	25	23	16	暗褐色土 炭混	×	（旧P497）
P190	B8	26	26	18	暗褐色土 炭少量混	×	
P191	B8	25	25	15	暗褐色土 明褐色ブロック・炭混	○	
P192	B8	40	40	28	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭・人頭大礫混	○	
P193	B8	48	45	45	暗褐色土 黄橙色ブロック・炭混	○	鉄製品出土
P194	D8	30	30	30	褐色土	×	（旧P498）
P195	C8	24	20	8	暗灰褐色土	○	
P196	B8	23	23	22	暗褐色土	○	
P197	B8	45	47	33	-	○	
P198	B8	28	28	25	暗灰褐色土	○	P199より新しい
P199	B8	25	25	20	暗褐色土	○	P198より古い
P200	B8	22	20	17	暗灰褐色土 褐色ブロック混	×	
P201	B8	23	23	15	暗灰褐色土 炭混	×	
P202	B8	22	22	11	暗灰褐色土	○	
P203	B8	25	25	10	暗灰褐色土 炭少量混	×	
P204	B8	30	28	23	暗褐色土 赤色粒混	×	
P205	B8	45	37	30	暗黄灰褐色土（粗）礫混	○	
P206	B8	35	30	27	暗黄灰褐色土（密）	○	
P207	B8	30	30	28	暗褐色土	○	
P208	B8	36	30	33	暗灰褐色土 黄橙色ブロック・炭混	×	柱痕
P209	B8	23	18	12	暗灰褐色土 黄橙色ブロック・炭混	○	
P210	B8	39	36	38	暗灰褐色土 黄橙色ブロック・炭混	○	
P211	B8	25	21	25	暗灰褐色土	○	
P212	C8	20	20	12	暗褐色土	○	鉄滓出土
P213	C8	36	32	19	暗灰褐色土 炭多量混	×	
P214	C8	45	40	48	暗黄褐色土 橙褐色ブロック・炭多量混	○	
P215	C8	34	30	12	暗黄灰褐色土 黄褐色ブロック混	×	
P216	C8	26	26	18	暗灰褐色土 炭少量混	○	
P217	C8	25	22	7	暗灰褐色土	×	石捨て穴か
P218	C8	28	25	10	暗灰褐色土	○	
P219	C8	62	62	10	暗灰白粘質土	○	
P220	C8	30	21	20	暗灰褐色土	○	
P221	C8	36	30	37	暗灰褐色土	○	P222より新しい
P222	C8	25	25	16	暗褐色土 明褐色ブロック・炭混	○	
P223	C8	28	22	10	暗灰褐色土	○	P222より新しい。鉄滓出土
P224	D7	35	31	32	暗褐色土 炭混	×	（旧P505）
P225	C7	25	20	9	暗褐色土	×	
P226	C7	30	30	18	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	鉄製品出土
P227	C7	23	20	26	暗褐色土	○	
P228	C7	30	30	23	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P229	C8	30	25	7	暗褐色土	○	
P230	C8	34	26	30	暗灰褐色土	○	
P231	C8	28	28	18	暗灰褐色土 炭少量混	○	
P232	C8	38	30	19	暗灰褐色土	○	
P233	C8	43	40	45	暗褐色土 炭少量混	○	
P234	C8	38	28	23	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P235	C8	38	30	25	暗灰褐色土 炭少量混	○	
P236	C8	35	32	8	暗灰褐色土	×	
P237	C8	35	35	40	暗灰褐色土	○	砥石出土
P238	C8	35	25	22	暗灰褐色土	○	P239より新しい
P239	C8	30	30	31	暗褐色土	×	P238より古い
P240	C8	20	20	25	暗黄褐色土	×	
P241	C8	23	28	23	暗灰褐色土 黄灰色ブロック・炭混	○	
P242	C8	35	30	10	暗褐色土	○	
P243	C8	21	21	18	暗黄褐色土	×	
P244	C8	19	15	14	暗黄褐色土	×	
P245	C8	32	32	50	暗褐色土	○	

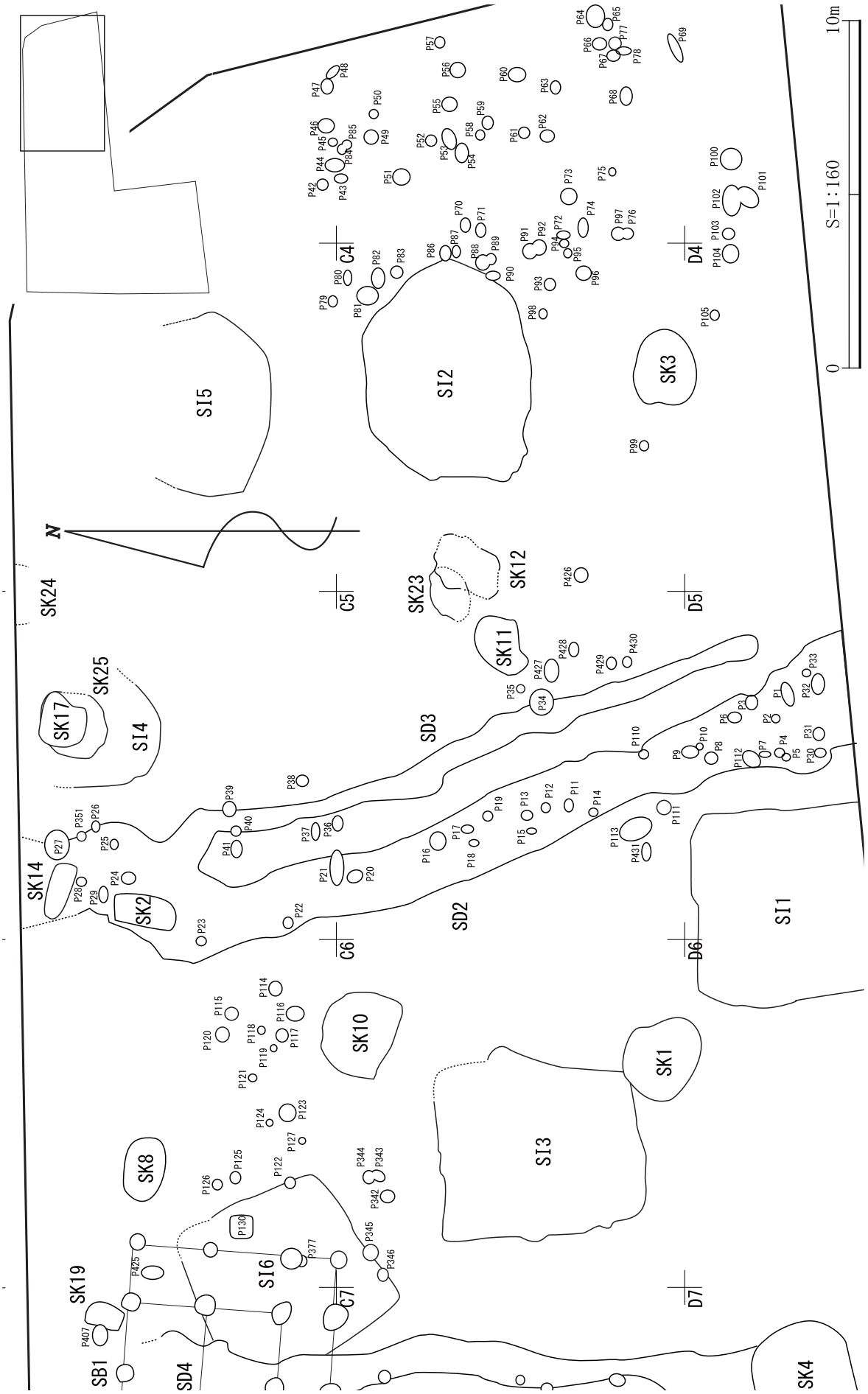
№	地区	長径cm	短径cm	深さcm	土　色	遺物	備　考
P246	C8	30	25	13	暗灰褐色土 炭混	○	
P247	C8	28	26	19	暗灰褐色土 炭混	×	
P248	C8	76	73	10	灰褐色土粘質土	○	
P249	D8	25	23	14	暗灰褐色土	○	
P250	D8	26	24	20	暗褐色土	○	
P251	D8	30	26	12	暗褐色土	○	
P252	D8	23	23	27	暗褐色土	○	
P253	B7	22	19	30	暗灰褐色土 明褐色ブロック混	○	P254より新しい
P254	B7	30	24	25	暗褐色土	○	P253より古い
P255	B7	21	21	23	暗褐色土	○	
P256	B7	27	24	15	暗灰褐色土 明褐色ブロック・炭混	○	
P257	B7	35	31	10	暗灰褐色土	○	
P258	B7	30	28	20	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	石庖丁出土
P259	B7	24	24	34	褐色土 明褐色ブロック・炭混	○	
P260	B7	34	30	20	暗褐色土	○	
P261	B7	50	40	38	暗灰褐色土 褐色ブロック・橙褐色ブロック・炭混	○	
P262	B7	28	26	22	暗灰褐色土	○	
P263	B7	26	22	25	暗灰褐色土 明褐色ブロック・炭混	○	
P264	B7	27	24	21	褐色土	○	
P265	D7	25	20	40	暗灰褐色土	×	（旧P506）
P266	B7	15	14	15	暗褐色土	×	
P267	B7	26	26	27	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭多量混	○	
P268	B7	25	23	32	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭多量混	×	
P269	B7	26	21	9	暗灰褐色土	○	
P270	B7	20	20	16	暗褐色土（密）	×	
P271	B7	24	24	35	暗褐色土	○	
P272	B7	23	19	10	暗褐色土	○	
P273	B7	25	25	38	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P274	B7	26	24	30	暗褐色土 炭混	×	
P275	C7	45	45	8	暗黄灰褐色土 黄橙色ブロック・炭混	×	P276より新しい
P276	B7	37	36	13	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	P275より古い
P277	C8	50	40	55	暗褐色土 橙褐色ブロック・多量混	○	
P278	D7	35	32	14	暗褐色土	×	（旧P507）
P279	C7	25	25	20	暗褐色土	○	
P280	C7	20	18	12	暗褐色土 炭混	○	
P281	C7	20	20	22	暗褐色土	×	
P282	C8	26	24	35	暗褐色土	○	
P283	C8	27	20	45	暗褐色土 黄橙色ブロック・炭混	○	
P284	C7	60	60	50	暗褐色土	○	P340より古い
P285	C7	30	29	12	暗褐色土 炭少量混	○	
P286	C7	24	20	30	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	P287より新しい
P287	C7	30	30	15	暗灰褐色土	○	P286より古い
P288	D8	20	19	14	暗褐色土	×	（旧P500）
P289	C8	30	25	26	暗黄灰褐色土炭混	×	
P290	C8	21	21	10	暗褐色土	×	
P291	C7	33	33	30	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭多量混	○	
P292	B7	17	17	15	暗褐色土	×	
P293	B7	25	23	20	暗灰褐色土	×	
P294	B7	24	20	18	暗褐色土	×	P295より新しい
P295	B7	30	25	45	暗褐色土 炭混	○	P294より古い
P296	B7	56	47	40	-	○	柱痕
P297	B7	29	25	14	暗灰褐色土	○	
P298	B7	40	34	22	暗褐色土（密）	○	
P299	B7	22	20	12	暗灰褐色土（粗）	○	
P300	B7	14	14	15	暗灰褐色土	×	
P301	B7	29	27	35	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭多量混	○	
P302	B7	72	67	13	暗褐色土	×	
P303	B7	28	26	39	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭多量混	○	
P304	B7	17	13	13	暗褐色土（粗）	×	
P305	B7	27	25	23	暗灰褐色土 褐色ブロック・炭混	○	
P306	C7	36	32	24	暗黄灰褐色土	×	
P307	C7	31	30	45	暗灰褐色土	○	
P308	C7	28	28	15	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭少量混	○	

№	地区	長径cm	短径cm	深さcm	土　色	遺物	備　考
P309	C7	20	20	8	暗灰褐色土 橙褐色ブロック混	○	
P310	C7	25	25	10	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P311	C7	23	23	20	暗褐色土	○	
P312	C7	28	27	22	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P313	C7	24	21	11	暗灰色土	×	
P314	C7	54	24	8	灰褐色土粘質土	×	
P315	C7	37	34	15	暗褐色土	○	
P316	C7	25	25	18	暗褐色土 炭混	○	
P317	C7	23	23	37	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P318	D7	35	33	32	暗褐色土	×	（旧P501）
P319	D7	26	23	20	暗褐色土 橙褐色粒混	×	（旧P502）
P320	C7	33	22	13	暗褐色土	○	
P321	C7	32	29	12	暗褐色土（密）	○	
P322	C7	24	24	28	暗灰褐色土	○	
P323	D7	24	31	16	暗褐色土	○	
P324	D7	31	32	47	暗褐色土	○	
P325	B7	32	19	7	暗褐色土（密）	○	
P326	B7	29	27	21	暗褐色土（粗）	○	
P327	B7	20	20	12	暗褐色土（密）	×	
P328	B7	27	26	23	暗褐色土（粗）	○	
P329	B7	22	21	18	暗灰褐色土	○	P330より新しい
P330	B7	24	22	17	暗褐色土	×	P329より古い
P331	B7	27	27	20	暗灰褐色土	○	
P332	B7	29	27	45	暗黄灰褐色土 炭混	○	鉄釘出土
P333	B7	27	27	26	暗褐色土 炭混	○	
P334	B7	27	25	25	灰褐色土炭多量混	○	
P335	B7	28	26	23	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭少量混	○	
P336	B7	24	21	16	暗褐色土	○	
P337	B7	22	20	26	暗褐色土 炭混	×	
P338	B7	48	42	10	暗褐色土	○	
P339	B7	30	25	33	暗灰褐色土 炭混	○	鉄滓出土
P340	C7	40	40	20	暗灰褐色土 炭混	○	P284より新しい
P341	C7	36	36	41	暗灰褐色土	○	
P342	C6	31	26	26	暗灰褐色土 橙褐色ブロック・炭少量混	○	
P343	C6	40	40	16	暗灰褐色土	○	P344より古い
P344	C6	34	31	20	暗褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	P343より新しい
P345	C6	36	32	25	暗黄灰褐色土	○	
P346	C6	44	35	21	暗褐色土 橙褐色ブロック混	○	
P347	D7	32	28	39	暗褐色土	×	（旧P494）
P348	D8	32	28	31	暗灰褐色土	×	（旧P499）
P349	D7	50	34	32	暗褐色土 炭混	×	（旧P503）
P350	D7	27	26	13	暗褐色土 炭混	×	（旧P504）
P351	B5	35	32	38	暗褐色土・砂混	○	
P352	C7	24	24	45	暗黄褐色土	○	
P353	C7	20	20	17	暗灰褐色土 炭混	×	（旧P485）
P354	B8	30	27	22	暗褐色土	○	
P355	B8	30	29	25	暗褐色土	×	
P356	B8	26	26	25	暗褐色土	×	
P357	B8	46	30	42	暗褐色土	×	
P358	B8	20	17	20	暗褐色土	×	
P359	B8	25	23	13	暗褐色土	○	
P360	B8	30	30	13	暗褐色土	○	
P361	D7	40	29	33	暗褐色土	×	（旧P492）
P362	B8	22	15	27	暗褐色土	×	
P363	B8	23	23	28	暗褐色土	○	
P364	B8	39	30	46	暗褐色土	○	
P365	C8	32	32	20	暗褐色土	×	
P366	C8	30	28	48	褐色土	×	
P367	C8	48	40	23?	暗褐色土	○	
P368	C8	34	25	27	暗褐色土	×	
P369	C8	23	23	20	褐色土	×	
P370	C8	22	22	11	黄褐色土	○	撹乱か
P371	C8	37	34	52	暗褐色土	○	
P372	C8	45	40	26	褐色土	×	
P373	C8	42	36	47	暗褐色土	○	
P374	C8	29	26	16	褐色土	○	
P375	C8	25	25	36	暗褐色土	○	
P376	C7	70	30	12	暗褐色土 炭混	×	（旧P486）
P377	B6	40	28	51	-	×	
P378	E9	27	26	44	-	○	
P379	C9	38	32	40	暗灰褐色土 炭混	○	
P380	C9	25	24	14	褐色土	○	
P381	C9	28	26	23	褐色土 炭混	○	
P382	C9	33	31	38	暗黄褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P383	B8	24	23	26	暗黄褐色土	○	
P384	B8	35	30	30	暗黄褐色土	○	
P385	B8	25	25	35	暗黄褐色土	○	
P386	B8	45	36	47	暗黄褐色土 橙褐色ブロック・炭混	○	
P387	B9	35	32	33	暗灰褐色土	○	
P388	B9	45	44	42	褐色土	○	

№	地区	長径cm	短径cm	深さcm	土　色	遺物	備　考
P389	B8	77	60	40	褐色土（粗）	○	
P390	B8	25	24	25	暗灰褐色土	×	
P391	B8	30	30	32	褐色土	○	
P392	B8	31	31	40	暗灰褐色土 橙褐色粒混	×	
P393	B9	53	40	48	暗褐色土（粗）	○	
P394	B8	28	26	43	褐色土	×	
P395	D7	27	25	23	暗褐色土	×	（旧P493）
P396	B7	23	20	24	暗褐色土	○	
P397	C7	40	39	60	暗褐色土	×	（旧P487）
P398	B9	36	34	17	暗褐色土	○	
P399	B9	24	23	12	褐色土	○	
P400	B9	29	26	26	褐色土	○	
P401	B9	36	30	30	暗褐色土	○	
P402	B9	42	40	70	褐色土	○	
P403	B8	36	32	56	暗褐色土 炭混	○	
P404	B8	30	28	24	暗褐色土	○	
P405	C7	61	38	20	黄灰褐色土	○	
P406	B7	26	23	28	-	×	
P407	B7	60	57	50	暗褐色土	○	
P408	B7	28	28	14	褐色土	○	
P409	B8	28	23	12	褐色土 鉄分混	○	
P410	B8	37	30	18	褐色土	○	
P411	C7	34	24	49	暗褐色土 炭混	○	
P412	C7	37	37	45	褐色土 橙褐色粒混	○	
P413	C7	38	36	40	暗灰褐色土	○	
P414	C7	29	28	50	暗褐色土 炭混	○	
P415	C7	25	25	31	褐色土	○	
P416	C7	25	24	13	暗灰褐色土	○	
P417	C7	28	25	30	暗褐色土 炭混	○	
P418	C7	23	23	26	褐色土	○	
P419	C7	32	30	44	暗褐色土	○	
P420	C7	73	50	24	暗褐色土 炭混	○	
P421	D7	34	28	45	暗灰褐色土 炭混	×	
P422	D8	25	23	21	暗褐色土	×	
P423	C7	35	34	40	-	×	
P424	C7	45	45	37	-	×	柱痕
P425	B6	72	50	20	-	×	
P426	C4	30	28	40	暗褐色土	×	
P427	C5	40	37	36	褐色土 砂混	×	
P428	C5	30	29	40	暗褐色土	×	
P429	C5	26	24	27	暗褐色土	×	
P430	C5	20	19	36	暗褐色土	×	
P431	C5	60	52	26	暗褐色土 拳大礫混	×	
P432	D8	39	33	18	暗褐色土	×	
P433	D8	44	36	20	褐色土	×	
P434	D8	26	24	10	褐色土	×	
P435	E8	28	20	13	褐色土	×	
P436	E8	23	20	15	褐色土	×	
P437	E8	26	26	10	褐色土	×	
P438	E8	32	30	20	暗褐色土	×	
P439	B9	18	16	18	暗褐色土	×	
P440	B9	29	29	25	暗黄褐色土	×	
P441	B9	26	22	21	暗灰褐色土	×	
P442	B9	38	35	20	暗灰褐色土	×	
P443	C8	30	28	24	暗褐色土	×	
P444	C9	20	17	12	暗褐色土	×	
P445	C9	33	24	17	暗褐色土	×	
P446	C9	25	22	16	暗灰褐色土	×	
P447	B8	25	22	51	暗黄褐色土 橙褐色粒・炭混	×	
P448	B8	27	27	28	褐色土 橙褐色粒・炭混	×	
P449	B8	30	30	50	褐色土 黄橙色ブロック多量混	×	
P450	B8	25	23	17	暗黄褐色土 橙褐色粒・炭混	×	
P451	B8	37	32	17	褐色土	×	
P452	B8	42	35	12	暗褐色土 炭混	×	
P453	B8	49	48	30	暗褐色土 炭混	×	
P454	B8	33	33	20	暗黄褐色土	×	
P455	B8	24	23	13	暗黄褐色土	×	
P456	B8	27	21	17	暗黄褐色土	×	
P457	B8	30	30	26	暗黄褐色土（粗）	×	
P458	B7	36	30	17	暗褐色土	×	
P459	B7	26	21	21	暗褐色土	×	
P460	B7	26	20	21	暗褐色土	×	
P461	B8	20	20	25	暗褐色土 炭混	×	
P462	B8	23	20	26	暗褐色土 炭混	×	
P463	B8	27	27	30	褐色土	×	
P464	B8	30	27	30	暗褐色土	×	
P465	B8	26	18	26	灰褐色土	×	
P466	B8	16	16	30	暗褐色土 炭混	×	
P467	B8	20	17	30	暗褐色土 炭混	×	
P468	B8	25	24	14	暗褐色土 炭混	×	
P469	C7	24	24	37	褐色土 炭混	×	
P470	C7	28	27	33	暗褐色土 炭混	×	
P471	C7	23	23	34	暗褐色土	×	
P472	C8	30	23	43	暗黄灰褐色土炭混	×	
P473	C8	25	20	50	暗褐色土	×	
P474	C7	35	30	56	暗褐色土 橙褐色粒・炭混	×	
P475	C7	25	25	22	暗褐色土	×	
P476	C7	23	21	12	暗褐色土	×	
P477	C7	36	34	14	暗灰褐色土 橙褐色粒混	×	
P478	C7	17	17	19	暗灰褐色土	×	
P479	C7	26	23	23	暗褐色土	×	
P480	C7	37	35	28	褐色土 炭混	×	
P481	C7	48	48	16	暗褐色土	×	
P482	C7	69	60	15	暗褐色土 炭混	×	

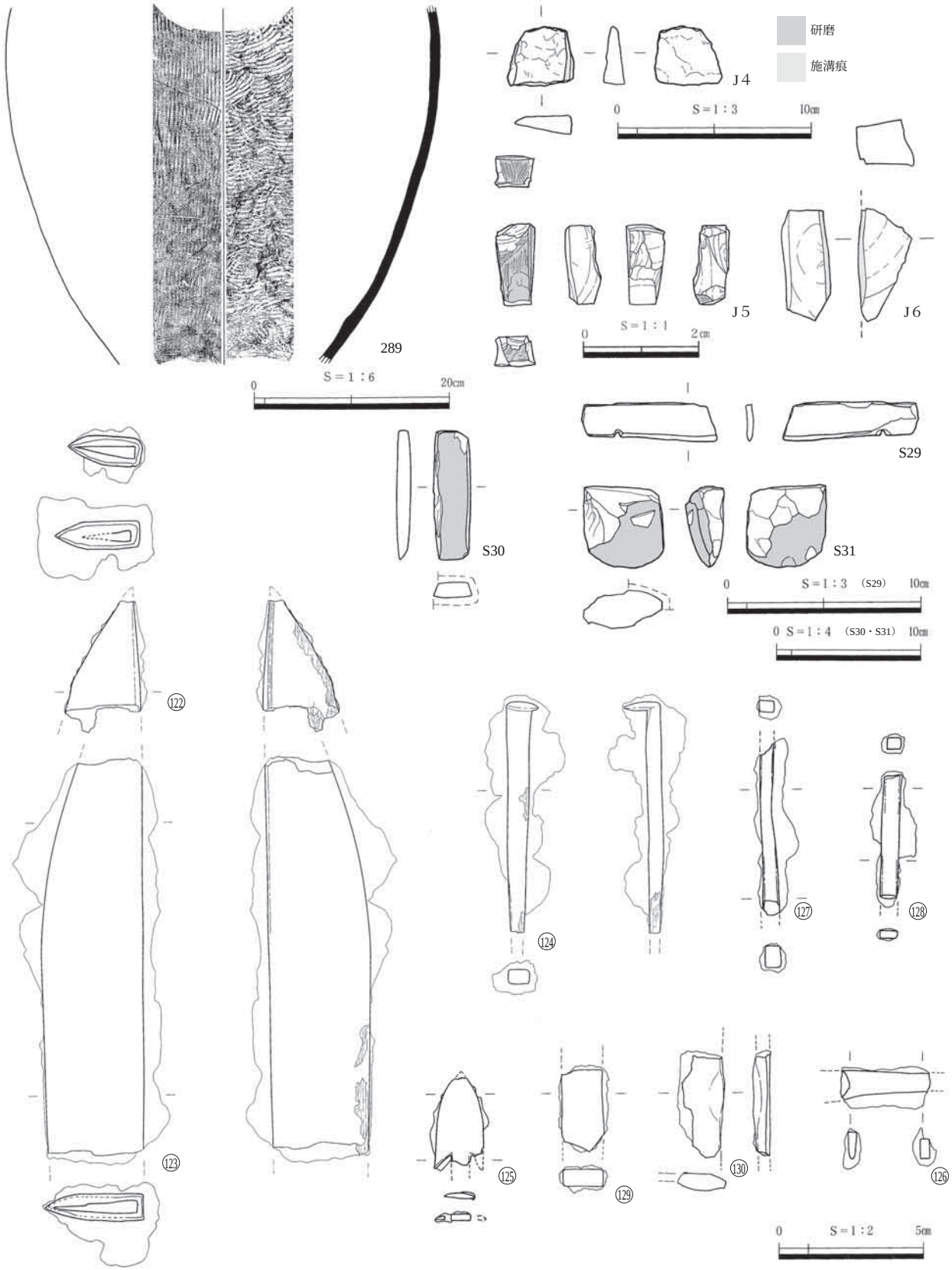


第84図　ピット分布図（１）



第85図　ピット分布図（２）

第86図　遺構外出土の遺物（１）



第87図　遺構外出土の遺物（２）

第７節　遺構外出土の遺物（第86・87図、PL37・39・40・41・42）

表土、包含層、撹乱土からも膨大な量の遺物が出土した。これらの中から各時期の特徴を示すものを選別して第86・87図に図示した。ただし、須恵器壺284、須恵器甕289など遺存度の高い個体については、本来は遺構に伴っていた可能性もある。